

【4H1B109】衛生学・公衆衛生学		歯科衛生学科		2年前期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	大林 泰二					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大学病院等勤務 歯科医師 15年					
授業方法	講義を中心としますが問題演習も行う予定です。					
到達目標	知識・理解	衛生学・公衆衛生学の総論に加えて口腔衛生学の基礎的な知識を理解できる。				
	思考・判断・表現	公衆衛生学・口腔衛生学を日常生活並びに歯科診療に結びつけながら考え、課題や問題点の原因を挙げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。				
	関心・意欲・態度	公衆衛生学・口腔衛生学と公衆衛生学・口腔衛生学を結びつけながら、それらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。				
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	衛生学・公衆衛生学を含めた保健生態学は「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」を学ぶ学問です。「健康を左右する環境」、「健康に関わる地域の役割」で環境衛生について、健康と予防医学、口腔衛生の基礎知識、ライフステージにおける健康管理を学び、集団を対象とした地域保健活動の在り方について理解を深めます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	20	-	-	80
	自己評価	-	-	-	10	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	60	20	-	20	100
評価の特記事項						
ICT活用	GoogleFormsなどICTを活用した双方向型授業や自主学修支援などを実施する予定です。					
アクティブ・ラーニングの活用	GoogleFormsを用いて電子ミニッツペーパーの実施を予定しています。					
課題に対するフィードバック	即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどでフィードバック対応します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(6,160円) ISBN:978-4-263-42862-7					
参考書・教材	必要な資料は印刷して配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<p>ガイダンス、健康と予防に関わる社会の仕組みと環境を考える。(授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する、健康を左右する環境衛生と個人と集団に対する健康維持・予防に関わる社会の仕組み・理念[QOL、ノーマライゼーションなど]に関する知識を修得する。健康や予防医学の概念を理解する) P2~7</p> <p>【課題】  (準備) これまで学んだことのある公衆衛生学についてまとめる(1h)  (復習) 保健とは何かについて考える(1h)  (予習) 疫学とは何かについて考える(1h)</p>					
2	<p>疫学とは何か?疫学の方法について考える。(疾病や異常の発生要因、疫学研究の種類を学ぶ) P8~17</p> <p>【課題】  (準備) 疫学の概要をまとめる(1h)  (復習) 疫学の方法についてまとめる(1h)  (予習) 人口静態・動態調査について考える(1h)</p>					
3	<p>「人口静態・動態調査」について考える(世界の人口、日本の人口ピラミッド、平均余命[生命表]、高齢化などについて理解を深め、現状について考える) P18~33</p> <p>【課題】  (準備) 人口静態・動態調査についてまとめる(1~2h)  (復習) 人口ピラミッドについて整理する(1~2h)  (予習) 環境問題について考える(1~2h)</p>					
4	<p>周囲の環境問題を考える(地球環境の現状と変化、身近な環境と人間生活の関係、特に空気と水、放射線、住居・衣服・公害、廃棄物処理について理解を深め、現状について考える) P34~59</p> <p>【課題】  (準備) 地球環境の現状と変化についてまとめる(1~2h)  (復習) 廃棄物処理について整理する(1~2h)  (予習) 感染症について考える(1~2h)</p>					
5	<p>感染症・食品衛生を考えるI(感染症の3大要因を理解し、予防対策を考える。また感染症の分類・特徴、主な感染症の動向を学ぶ) P60~70</p> <p>【課題】  (準備) 感染症の現状と変化についてまとめる(1~2h)  (復習) 感染症の3大要因について整理する(1~2h)  (予習) 感染症法について考える(1~2h)</p>					
6	<p>感染症・食品衛生を考えるII(感染症法を理解し、予防対策を考える。また感染症の分類・特徴、主な感染症の動向を学ぶ) P70~75</p> <p>【課題】  (準備) 感染症法についてまとめる(1~2h)  (復習) 重篤な感染症の伝播について整理する(1~2h)  (予習) 食中毒について考える(1~2h)</p>					

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>感染症・食品衛生を考えるIII(食中毒の分類と特徴を知る。また原因・発生状況を理解し食品の安全確保のための方策を学ぶ。健康日本21[第二次]の食に関する政策を理解する。国民の栄養状態と食中毒の原因を理解し食育の増進を図る) P76～86</p> <p>【課題】  (準備) 食中毒の現状と変化についてまとめる(1～2h)  (復習) 日本人の栄養について整理する(1～2h)  (予習) ここまでの授業についてまとめる(1～2h)</p>
8	<p>第1回～第7回のまとめ及び中間試験(第7回までの範囲について試験を行う)</p> <p>【課題】  (準備) ここまでの授業で学んだ内容についてまとめる(1～2h)  (復習) 出題された内容を再確認する(1～2h)  (予習) 地域公衆衛生について考える(1～2h)</p>
9	<p>保健管理と地域公衆衛生について考えるI(各ライフステージにおける口腔保健を理解する。また地域社会組織と仕組みと公衆衛生への関わりについて考える) P216～247</p> <p>【課題】  (準備) ライフステージごとの口腔保健管理の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 地域公衆衛生の組織について整理する(1～2h)  (予習) 母子保健について考える(1～2h)</p>
10	<p>地域保健活動の進め方を理解し、母子保健、小児保健の現状を考える(健康日本21、母子保健、小児保健について現状をまとめる) P248～262</p> <p>【課題】  (準備) 母子保健の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 母子保健の組織について整理する(1～2h)  (予習) 学校保健について考える(1～2h)</p>
11	<p>学校保健の現状を考える(学校保健の対象者・活動を知り、保健教育・保健管理を理解する。健康診断・事後処置を説明できるようになる。) P263～279</p> <p>【課題】  (準備) 学校保健の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 学校保健の組織について整理する(1～2h)  (予習) 産業保健について考える(1～2h)</p>
12	<p>産業保健、成人保健の現状を考える(産業保健の目的を知り、職業性疾患を列挙し、保健管理体制と作業環境間、作業管理、健康管理を説明できるようになる。職域における健康診断とトータルヘルスプロモーションプラン(THP)を理解する。また成人生活習慣病のリスクファクターを学び対策を知る。) P280～298</p> <p>【課題】  (準備) 産業保健の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 成人保健について整理する(1～2h)  (予習) 老人保健について考える(1～2h)</p>
13	<p>老人保健の現状を考える(高齢者の保健福祉対策・介護保険制度の概要を理解する。要介護者の保健福祉対策・地域包括ケアシステムを説明できるようになる) P299～308</p> <p>【課題】  (準備) 老人保健の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 介護保険について整理する(1～2h)  (予習) 精神保健について考える(1～2h)</p>
14	<p>精神保健を考える(精神保健の定義と意義を学ぶ。また精神医療の現状と課題について考える) P309～316</p> <p>【課題】  (準備) 精神保健の現状についてまとめる(1～2h)  (復習) 精神障害の歯科保健について整理する(1～2h)  (予習) 災害時保健、国際保健について考える(1～2h)</p>
15	<p>災害時歯科保健、国際保健を考える(大規模災害での保健医療対策を理解する。国際協力、特に開発途上国における保健機関、WHO、JICAの活動を考える) P317～329</p> <p>【課題】  (準備) 大規模災害時の歯科について考える(1～2h)  (復習) 国際保健の組織について整理する(1～2h)</p>
時間外での学修	<p>時間外での学修【課題】は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので( )の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。  【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>積極的に授業に参加してください。  オフィスアワーはG205(G号館2階)で毎週木曜日16:20から17:50です。</p>

【4H1B212】保健情報統計学		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大林 泰二						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師（大学病院等勤務）：15年						
授業方法	統計処理の基礎編から応用へと段階的に進めて行く授業方法とするため、各回の授業内容を確実に理解することが大切である。また小グループでの討論や発表の活動を含めた授業展開も考慮する。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健情報統計の意味とその目標及び手順について説明ができる。</li> <li>記述統計の基礎的用語が説明できる。</li> <li>標本抽出の方法を説明できる。</li> <li>基本的な統計学的手法（主として数値の比較および相関分析）について説明できる。</li> <li>様々な種類の統計のグラフが理解できる。</li> <li>齲蝕や歯周疾患の指数の意味を述べ、実際の算出データの評価について説明ができる。</li> </ul>					
	関心・意欲・態度	歯科医療における問題点を、自ら統計学的に解決することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	<p>口腔疾患の疫学的方法について理解し、口腔領域の統計に関する知識を深めることを目標とする。う蝕・歯周疾患・口腔清掃状態の疫学的特性と問題点、数量化の仕方、計算方法などについても、修得することを目指す。適宜、演習問題を併用し、実践面に役立つ衛生統計学の知識をアクティブ・ラーニングを活用して修得する内容とする。</p> <p>学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。</p>						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		90	-	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）で評価を行う。受講態度は学修への取組状況によって評価する。						
ICT活用	授業では大型ディスプレイや現物投影機を使用する。動画を活用することもある。必要に応じてポータルサイトに資料をアップロードする。						
アクティブ・ラーニングの活用	Googleフォームを用いた復習テストを行った後、解答の解説と同時にディスカッションを行う。						
課題に対するフィードバック	知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。						
テキスト	『『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版(3,080円) ISBN:978-4-263-42624-1						
参考書・教材	必要な資料は適宜紹介または配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	国家統計調査と人口統計：公的統計，口腔保健関連の国家保健統計，についても学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。（1h）						
2	人口統計：人口統計（人口動態調査，人口動態調査，人口ピラミッドなど）についても学ぶ。 [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
3	疫学（1）：疫学とは （疫学の定義，健康障害の発生要因，疫学の調査方法について学ぶ。） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
4	疫学（2）：疫学の方法論 （観察研究の分類，有病と罹患，介入，コホート研究，患者対象研究などについて学ぶ） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
5	疫学（3）：スクリーニング検査 （スクリーニング検査の定義と方法，感度と特異度などについて学ぶ） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
6	疫学（4） 疫学の方法の実践 （問題演習を通じて，観察研究やスクリーニング検査の方法について学ぶ） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
7	歯科疾患の指数（1） 齲蝕の指数 （齲蝕の指数（DMF，def，defなど）について学ぶ。） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
8	歯科疾患の指数（2） 歯周疾患の指数 （歯周疾患の指数（PMA Index，GI，PI，CPIなど）について学ぶ。） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						
9	歯科疾患の指数（3） 口腔衛生状態の指数 （歯周疾患の指数（OHI，PHPなど）について学ぶ。） [課題（復習）]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。（1h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	<p>歯科疾患の指数(4) 指数の応用 (問題演習を通じて、歯科疾患の指数の算出の仕方と数値の解釈を学ぶ。) これまでの授業の学修の到達度の確認も行う。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)</p>
11	<p>保健統計の分析手順 母集団と標本、全数調査と標本調査、標本抽出法、ランダム化比較試験などについて学ぶ。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)</p>
12	<p>保健統計の方法(1) 代表値、散布度、データの尺度 代表値と散布度の意味、代表値とデータの尺度水準との関係について学ぶ。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h) 保健情報の収集：インターネットによる保健情報について学ぶ。</p>
13	<p>保健統計の方法(2) 統計解析の手法 t検定、分散分析、<math>\chi^2</math>検定、相関分析について学ぶ。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)</p>
14	<p>保健統計の分析演習 問題演習を通じて、代表値、散布度、データの尺度水準、統計解析に関する理解を深める。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。出された課題については、次回の授業に提出できるように取り組む。(1h)</p>
15	<p>保健情報統計学のまとめ これまでの授業内容と学修の到達度を確認した上で、総まとめを行う。研究の進め方や倫理についても説明する。 [課題(復習)]授業内容の復習をする。(1h)</p>
時間外での学修	<p>テキストや配布資料を使って、基本的な統計学の手法と歯科疾患の指数などについて学びます。配布資料は重要項目が明記されています。完璧にマスターして下さい。なお、授業中に重要項目について復習テストを行います。しっかり取り組んで確実に身に付けて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>授業では、解説だけでなく問題演習も行います。しっかりマスターして下さい。 疑問点がある場合は、研究室(G205)をたずねて下さい。 オフィスアワーは、毎週木曜日の5時限目の16：20から17：30です。</p>

【4H1B113】衛生行政・社会福祉学		歯科衛生学科		2年後期			
		2単位	必修	講義	30時間		
教員	北嶋 勉						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大垣市社会福祉協議会事務局にて25年間地域福祉、ボランティア育成、生活困窮等諸事業に従事しその後10年間民間事業所にて介護保険事業運営に携わってきた。現在岐阜県社会福祉士会にて障害者等の権利擁護事業に従事している。社会的弱者とされる人の権利擁護が重要と考えている。						
授業方法	テキスト及び要約並びに国等機関で公表の諸調査から今後の地域福祉や地域医療等考える。論述能力育成の観点からいくつかの調査結果から社会福祉等の動向を読み取る力を養いたい。学修チェックを行い自己点検することで基本的な衛生行政、社会福祉の知識を修得する。又、授業毎に出席カードを利用した各自の質問や当方からの設問に対する随時の記述を求めます。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士法に限らず関連法との関わりが理解できる。					
	思考・判断・表現	歯科衛生業務が地域（医療機関・福祉等施設含め）で果たす役割について理解ができる。					
	技能	各種調査により保健歯科衛生等広く国民の健康データから今日の課題を見出すことができる。					
	関心・意欲・態度	課題レポート（1回程度）により国が実施した各種調査結果をもとに論述形式で課題提出を行う。尚本課題は論述部門として成績に反映する。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科衛生士は歯科衛生士法に基づく歯科医師の指導のもと一定の予防処置を行う他、歯科診療の補助を行う、業務の独占がなされる国家資格たる専門職（歯科医療職）である。その成り立ちや取り巻く関係法（歯科医療等）との関連並びに今日的課題である地域医療（歯科医療）との関連から今後の歯科衛生士の役割を学ぶ必要がある。その為には歯科衛生の枠内にとどまらず、広く社会の成り立ちや地域共生社会を支える社会福祉・社会保障との関連から理解することが益々求められる。クライアントや地域社会に関わる中で本授業が専門職としての歯科衛生士の人間性やコミュニケーションの豊かさの重要性等を学ぶ。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	課題レポート・表現（記述）		-	15	10	5	30
	自己評価		5	-	-	5	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		35	35	10	20	100
評価の特記事項	1.筆記試験 50点：基本的な知識や記述による思考等を評価する。 2.課題レポート 30点：随時課題設定のレポート提出を求める。 3.自己評価 10点：7回を一区切りとし区切り毎の自己評価(学修度)チェック表(当方で作成)により理解できたところ、不足しているところを自覚する。このことにより知識・理解と関心・意欲等それぞれ5点とし、総合的な力をレベルアップする。授業内及び自宅学修によりチェックをします。 4.受講態度 10点：当該授業に関連のない作業や顔伏せ姿勢は他の学生への負の影響があると判断します。又授業中の無断退席は授業への参加意欲がないものと判断します。						
ICT活用							
アクティブ・ラーニングの活用	国が実施した調査（データ）を分析し自分なりの考えをレポートすることで科学的思考を養う。又、歯科衛生業務と食品知識は重要な関連があり食品・栄養表示の実際をコンビニ、ドラッグストア等日頃身近な商店等展示商品から興味や知識を得る等の自主的取り組みにより歯科衛生と日常生活とのつながりを学ぶ。						
課題に対するフィードバック	出席カードにより質問や認識事項については質問者に限らず全員に解説等行いたい。出席カードの他に授業終了後積極的に質問がある場合について個別に伝えるほか助言を行いたい。初めて聞く制度名や用語は提供する資料の他自主的に確認することを勧めます。そのことを踏まえ各自からの質問などがあれば丁寧に答えたい。ある程度まとまれば全員に資料として提供したい。						
テキスト	『歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第10版』医歯薬出版(3,080円) ISBN:978-4-263-42290-8 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第3版』医歯薬出版(3,080円) ISBN:978-4-263-42861-0						
参考書・教材	時事問題等当方で準備する。						

内容	
実施回	授業内容・目標
1	社会保障制度について学ぶ(1) 社会保障全般について学ぶ 社会保障の歴史について学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
2	社会保障制度について学ぶ(2) ライフステージに応じた社会保障制度について学ぶ 世界の主な国による社会保障制度を学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
3	衛生行政について学ぶ 衛生行政の目的(日本国憲法との関連)、役割、沿革、仕組みについて学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
4	衛生関係法について学ぶ(1) 衛生関係法体系を学ぶ 医師法・歯科医師法を学ぶ 歯科衛生士法その1を学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
5	衛生関係法について学ぶ(2) 歯科衛生士法その2を学ぶ 関連する医療関係者に係る法を学ぶ 医療法について学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
6	衛生関係法について学ぶ(3) 薬事に関する法を学ぶ 地域保健に関する法を学ぶ 食品安全・食育に関する法を学ぶ [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
7	1回から6回までの基本的事項についての確認テストを行う 保健医療の動向について学ぶ(1) 国が公表する各種統計資料を読み取る の結果考えられることを発表・記述する [課題（準備）]事前にテキストに目をとおしておく。(4h) [学修チェック1回目]7回までの重要項目を問題形式で作成したものを時間内及び宿題として取り組む。

内容	
実施回	授業内容・目標
8	確認テスト・重要事項について説明し学修の達成度等確認する。 保健医療の動向について学ぶ(2) 医療施設、医療従事者の動向について学ぶ 地域格差について考える [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。 について根拠により自身の考えをまとめる。(5h) [学修チェック1回目説明]模範解答及び説明により重要項目を理解する。
9	保健医療の動向について学ぶ(3) 国民医療費の動向を各種統計資料により読み取る。 により今後の傾向を根拠により予測する [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。 について根拠により推測し記述する。(5h)
10	社会保険について学ぶ(1) 社会保険の沿革・行政組織を学ぶ 医療保険と年金制度について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。(4h)
11	社会保険について学ぶ(2) 雇用保険制度等について学ぶ 介護保険制度について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。(4h) [各種データの分析]代表的な調査結果から現在及び今後の社会福祉問題を論述するための説明を行う。 成果物は課題レポートとして評価する。(上記評価方法参照)
12	社会福祉について学ぶ(1) 社会福祉と社会保障について学ぶ 社会福祉の沿革について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。(4h)
13	社会福祉について学ぶ(2) 行政組織・担い手について学ぶ 生活保護法等主たる福祉関係法について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。(4h) [学修チェック2回目]8回から13回までの学修チェックを1回目と同様行う。
14	7回から13回までの基本的事項についての確認テストを行う 保健医療の実務について学ぶ 診療報酬の仕組みについて学ぶ 保健医療機関での実務について学ぶ [課題(準備)]事前にテキストに目をおしておく。(4h) [学修チェック2回目説明]1回目と同様説明し重要項目を理解する。
15	全体的まとめ 2回の学修チェック表を元に更に重要な項目の理解を深める。 定期試験の傾向を含めた全体まとめは30分としそののち90分の定期試験を実施します。 *定期試験では、選択方式とします。論述評価は11回で説明のとおり課題レポートの評価とします。最終授業日までに提出してください。詳細は別途説明します。
時間外での学修	事前にテキストに目をおしておくこと。制度は全ての条項を理解し記憶することは極めて困難でありそのことを目的としない。しかし制度の成り立ち・目的・理念・原理等についてはしっかり理解する必要がある。日ごろから新聞やニュース等で社会福祉・社会保障又生活関連記事に意識し根拠により批評・批判することは大切と考える。 課題レポートではテキストに限らず様々な学修資料を用いて論述してもらおうがまる写しは減点し、把握内容を元にした自分の考えや意見を表記するよう求めます。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	医療専門職を目指す者としての品格を高め、探求心の向上を期待します。出席カードの裏面に様々な疑問点を記載してください。質問事項に答え、授業の参考とします。日ごろから新聞やネット等により時事問題(グローバル問題含む)に関心を持ってください。幅の広い知識や関心は専門職が陥りやすい一般社会性を強化する上で役立つと考えます。 オフィスアワー：講義終了後教室にて

【4H2S203】保存修復・歯内療法学		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	松下 健二						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	松下健二：歯科医師、博士（歯学）（大学および研究所等勤務、25年）						
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とし、教科書だけでなくスライドや配付資料も併用しながら行う。講義の実施にあたっては調べ学習による「レポート課題」を取り入れ理解を深める。（状況により遠隔授業とすることがある）						
到達目標	知識・理解	・歯質の保存を意識した治療法を理解する。 ・「う蝕」および「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」についての病態を理解し、治療法を理解する					
	思考・判断・表現	・「う蝕」および「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療法を説明できる。					
	関心・意欲・態度	保存修復学および歯内療法学に関心をもち、積極的に学修に取り組むことが出来る。					
授業内容	「保存修復学」では、歯の硬組織疾患によって生じた歯の欠損部の形態・機能・審美性の回復と維持について学ぶ。歯の保存修復の治療内容だけでなく、原因疾患の発生リスク抑制や、再発予防について学ぶ。「歯内療法学」では、う蝕・外傷などの硬組織疾患に続発しておこる歯髄および根尖歯周組織の疾患について、病態や治療法などについて学ぶ。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	-	-	-	60
	レポート		-	20	-	20	40
	合計(点)		60	20	-	20	100
評価の特記事項	筆記試験は「定期試験」として実施し、60点分となります。レポートは複数回行い、最終的に40点分に換算します。						
ICT活用	オンラインによる知識チェックを行います						
アクティブラーニングの活用	事前にテーマを与えて自分自身で調べ、次の授業で発表・意見交換を行います。						
課題に対するフィードバック	筆記試験・レポートの実施後に、重要事項の確認を行います						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』千田 彰 他 医歯薬出版(4,730円) ISBN:978-4-263-42632-6 必要な資料は適宜配付する						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	○「保存修復・歯内療法」のオリエンテーション ・歯の保存の意義 ・歯の構造と検査 ・歯の保存・歯質の保存について理解し、口腔内とくに歯牙の検査について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						
2	○「う蝕」の治療 ・う蝕発生のメカニズム/好発部位 ・う蝕治療概要/窩洞の分類 ・歯科麻酔 「う蝕」の発生原因と治療の流れについて理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						
3	○「う蝕」の治療 ・生活歯/歯の切削 ・歯髄保護の手法概要 ・保存修復法の種類と材料 生活歯の特徴を理解する。各歯髄保護法の概要について理解する。成形修復法とインレー修復法の概要について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						
4	○「う蝕」の治療 ・直接法修復と間接法修復 ・コンポジットレジン/歯質接着 ・歯科用セメント う蝕治療における「直接法修復」を理解する。歯質接着を意識したレジン修復などを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						
5	○「う蝕」の治療 ・インレー(アンレー)修復とは ・メタルインレー/コンポジットレジンインレー/セラミックインレーなど ・ラミネートベニア修復 ・歯科用セメント う蝕治療における「間接法修復」を理解する。歯科用セメントの種類と特徴を理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						
6	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療 ・象牙質知覚過敏 ・歯髄疾患と歯髄保存療法 歯髄疾患の種類と病態を理解する。歯髄保護と保存法について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・断髄と抜髄</li> <li>・根管治療 / 根管充填</li> <li>・特殊な根管処置（アベキソゲネシス / アベキシフィケーション）</li> </ul> 歯髄除去の方法と根管における治療を理解する。歯科補綴学的対応との連携を理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
8	○「歯髄炎・歯髄壊疽・根尖性歯周炎」の病態と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染根管治療</li> <li>・外科的歯内療法</li> <li>・歯内療法時の安全対策</li> </ul> 根尖性歯周炎の成り立ちと治療について理解する。根管治療時の偶発症について理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
9	○歯の外傷と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の外傷の種類</li> <li>・歯牙破折の治療</li> <li>・歯牙脱臼への対応</li> </ul> 外傷歯に対する対応について理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
10	○保存修復・歯内療法で使用する材料・薬剤 <ul style="list-style-type: none"> <li>・つ窩消毒薬および根管消毒薬</li> <li>・消炎鎮痛剤</li> <li>・根管充填剤</li> <li>・レジン / セラミック / ハイブリッド</li> </ul> 保存修復治療・歯内療法治療で用いられる材料と薬剤の種類と注意点などについて理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
11	○保存修復・歯内療法治療の実際（症例検討） モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
12	○保存修復・歯内療法治療の実際（症例検討） モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
13	○保存修復・歯内療法治療の実際（症例検討） モデル患者による症例検討を通じて、保存修復・歯内療法治療の流れを理解する。歯科補綴学との連携も理解する。 【課題(復習)】講義で取り上げた歯科保存学関連用語を復習する。(2h)
14	○まとめと振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項の確認 / 問題演習</li> </ul> 保存修復・歯内療法学における重要事項の確認を行い、問題演習により理解を深める。 【課題(復習)】歯科保存学関連用語を整理し説明できるようにする。(2h)
15	○まとめと振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要事項の確認 / 問題演習</li> </ul> 保存修復・歯内療法学における重要事項の確認を行い、問題演習により理解を深める。 【課題(復習)】歯科保存学関連用語を整理し説明できるようにする。(2h)
時間外での学修	講義内容について教科書や配布プリント・インターネットなどを利用し復習しましょう。歯科補綴学と保存修復・歯内療法学は歯科の基本ですので確実に理解し修得するようにしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	保存修復治療と歯内療法は、歯科において非常に頻度が高い治療です。いずれの内容についても、病態、診断、診療内容および手順についてよく理解し説明出来るようになりますように。質問などは担当教員までして下さい。松下のオフィス(研究室)は「G204」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。



【4H2S204】歯科補綴学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	吉田 康夫					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	歯科医師(大学歯学部等)：20年					
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とし、教科書だけでなくスライドや配付資料も併用しながら行う。					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯の欠損状態と口腔の変化について理解する。</li> <li>補綴歯科装置の種類と特徴について理解する。</li> <li>歯科補綴治療の重要性を理解し、治療過程を理解する。</li> </ul>				
	関心・意欲・態度	歯科補綴治療における検査と診断および治療時の業務や患者指導に関心を持ち、自らすすんで学修に取り組むことが出来る。				
授業内容	「歯科補綴学」は、歯や関連組織の欠損によって生じる顎口腔系の機能障害、および審美性の回復を目的とする学問である。補綴歯科装置の種類や治療全体の流れ、補綴装置作製における技工操作など、補綴歯科治療時における専門的知識について解説する。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	レポート	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項						
ICT活用	オンラインにての知識確認を実施することもある。					
アクティブ・ラーニングの活用	事前にテーマを与えて自分自身で調べ、次の授業で発表・意見交換を行う。					
課題に対するフィードバック	レポート・筆記試験の実施後に、重要知識の確認と整理を行う。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版(3,740円) ISBN:978-4-263-42615-9					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歯科補綴学オリエンテーション</li> <li>・口腔および顎・顔面の解剖と生理</li> <li>・「補綴歯科」とは</li> <li>・補綴歯科治療の意義と目的/咬合および咀嚼の重要性</li> <li>歯の「欠損」とは何かを理解し、補綴治療の目的と「咬合」と「咀嚼」について理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴歯科装置の種類と治療</li> <li>・固定性補綴装置と可撤性補綴装置</li> <li>・歯冠の欠損と被覆冠(クラウン)による治療</li> <li>・支台歯形成(生活歯、失活歯)とコア/印象採得概要など</li> <li>クラウンの種類と、クラウンによる補綴治療の流れを理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴装置の種類と治療</li> <li>・歯の欠損と補綴治療</li> <li>・橋義歯(ブリッジ)/床義歯</li> <li>・プロビジョナルレストレーション</li> <li>歯の欠損に対する各治療方法のメリットとデメリットを理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴装置の種類と治療</li> <li>・インプラント治療</li> <li>歯の欠損に対するインプラント治療の実際およびメリット・デメリットを理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴歯科治療で使用する装置・器具・材料</li> <li>・歯牙切削および研磨用装置</li> <li>・印象採得および咬合採得用器材</li> <li>・咬合器</li> <li>補綴治療で使用する器具・材料について理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴歯科治療で使用する装置・器具・材料</li> <li>・接着剤</li> <li>・人工歯の種類</li> <li>・床義歯用レジン</li> <li>補綴治療で使用する器具・材料について理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補綴装置のメンテナンスと修理</li> <li>・補綴装置の清掃法</li> <li>・補綴装置の修理</li> <li>固定性補綴装置および可撤性補綴装置の清掃とメンテナンスについて理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○顎補綴治療</li> <li>・顎欠損</li> <li>・口腔外科との連携</li> <li>顎補綴治療の流れについて理解する。</li> <li>[課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)</li> </ul>					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	○顎運動と顎関節症 ・ヒトの下顎の動き ・顎関節の特殊性 ・顎関節症の治療 顎運動について理解し、顎関節症の発生と症状・治療について理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
10	○補綴歯科治療の実際(症例検討) モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
11	○補綴歯科治療の実際(症例検討) モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
12	○補綴歯科治療の実際(症例検討) モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
13	○補綴歯科治療の実際(症例検討) モデル患者による症例検討を通じて、補綴歯科治療の流れを理解する。 [課題(復習)]講義で取り上げた歯科補綴学関連用語を復習する。(2h)
14	○まとめと振り返り ・重要事項の確認と問題演習 歯科補綴学における重要用語を理解し、問題演習を通じ理解を深め、説明出来るようになる。 [課題(復習)]歯科補綴学関連用語を整理し、説明出来るようにする。(2h)
15	○まとめと振り返り ・重要事項の確認と問題演習 歯科補綴学における重要用語を理解し、問題演習を通じ理解を深め、説明出来るようになる。 [課題(復習)]歯科補綴学関連用語を整理し、説明出来るようにする。(2h)
時間外での学修	講義の内容を教科書や配布プリントを利用しよく復習しましょう。歯科において補綴治療は大きなウエイトを占める分野ですので理解を深め、確実に学修しましょう。理解できないことや疑問点があれば担当教員まで質問して下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	教科書や配布プリント・インターネット・参考文献などで図をよく見てイメージするようにして下さい。担当教員のオフィス(研究室)は「G305」です。オフィスアワーについては講義開始時に伝達します。

【4H2S205】口腔外科学		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	太田 彰						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	歯科医師：大学病院等勤務（17年）						
授業方法	講義を中心として、歯科衛生士が日常業務を行うために必要な口腔外科・歯科麻酔、特に顎・口腔粘膜疾患や基礎疾患を理解し、問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて授業を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には口頭もしくはポータルサイトなどで対応します。						
到達目標	知識・理解	歯科衛生士が口腔外科の介助を含めた日常業務を行うために必要な顎・口腔粘膜疾患の基本的な知識を理解できる。その他の臓器に与える口腔の影響を外科的観点から理解することができる。					
	思考・判断・表現	口腔外科と患者の基礎疾患を結び付けながら考え、医療現場で起こり得る課題や問題点の原因を上げて解決の方策やそれに繋がる取り組みなどを示すことができる。					
	関心・意欲・態度	口腔外科や一般歯科治療と全身疾患を結び付けながらそれらに関する課題に関心を持ち、積極的に考えようと努力して学修に取り組むことができる。小グループ討論で考えた事などを積極的に発表する。グループをまとめ、司会、書記、発表できる。					
授業内容	今まで歯科衛生士の業務はう蝕と歯周病に対する予防を担う面が多かったのですが、現在の高齢化社会において顎・口腔粘膜の病変患者も多く、また全身疾患を患う歯科患者に対する専門的な知識が必要とされています。さらに歯科衛生士にとって周術期の口腔管理や口腔がんの早期発見の手助けなど口腔観察も重要な業務となっています。この授業では口腔外科・歯科麻酔を学ぶことで口腔のみならず、患者の基礎疾患を理解し対応できる歯科衛生士になること目指します。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	10	-	-	60
	小テスト		-	20	-	-	20
	課題提出		-	10	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	40	-	10	100	
評価の特記事項	自己評価は学修成果に対する自己の評価、受講態度は学修・発表、提出等の状況とします。						
ICT活用	ポータルサイトなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。						
アクティブ・ラーニングの活用	PBLを小グループ討論で行います						
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは即対応可能なものにはその場で、時間を要すものにはポータルサイトもしくはメールなどでフィードバック対応します						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ『口腔外科学・歯科麻酔学』』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(4,620円) ISBN:978-4-263-42606-7						
参考書・教材	歯科衛生士講座 口腔外科学 永末書店						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1回	ガイダンス、口腔外科の概要について考える(口腔外科の特徴と主な疾患について分類・診断と治療の概要を理解する。また口腔病変と関連する全身疾患を循環器・呼吸器・代謝性疾患・肝腎臓疾患などに分けて学ぶ)口の中だけではない消化器の入り口としての機能を理解してもらう [課題] (復習) 口腔外科と全身疾患について考える(1h) (予習) 顎・口腔領域の先天異常について考える(1h)						
2回	顎・口腔領域の先天異常・発育異常について考える(歯の発育異常、口腔軟組織の発育異常、口唇・口蓋裂、顎の先天異常について理解する) [課題] (復習) 口唇・口蓋裂について整理する(1-2h) (予習) 顎・口腔領域の外傷とは何かについて考える(1-2h)						
3回	顎・口腔領域の外傷について考える(口腔軟組織の損傷、歯、歯槽の外傷、顎骨骨折について理解する。また顎関節疾患[脱臼・顎関節症]について学ぶ) [課題] (復習) 顎関節疾患について整理する(1-2h) (予習) 口腔粘膜疾患とは何かについて考える(1-2h)						
4回	口腔粘膜疾患について考える(水泡形成、紅斑形成、潰瘍形成、白斑形成、色素沈着、口腔乾燥、貧血などを特徴とする口腔粘膜疾患を理解する)[課題] (復習) 特に口腔がんについて整理する(1-2h) (予習) 口腔領域の化膿性疾患とは何かについて考える(1-2h)						
5回	顎・口腔領域の化膿性疾患を考える(炎症とはなにかを理解し、歯周組織の炎症、顎骨の炎症を学ぶ。) [課題] (復習) 特に膿瘍について整理する(1-2h) (予習) 口腔領域の嚢胞性疾患とは何かについて考える(1-2h)						
6回	顎・口腔領域の嚢胞性疾患を考える(歯に関係ある嚢胞とそうでない嚢胞を区別して理解する) [課題] (復習) 顎骨にできるもの軟組織にできるものについて整理する(1-2h) (予習) 口腔領域の腫瘍性疾患とは何かについて考える(1-2h)						
7回	顎・口腔領域の腫瘍性疾患を考える1(良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、また歯に関係する腫瘍と、そうでないものを区別する。) [課題] (復習) 口腔領域の良性腫瘍について整理する(1-2h) (予習) 口腔領域の悪性腫瘍とは何かについて考える(1-2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8回	顎・口腔領域の腫瘍性疾患を考える2(悪性腫瘍を学ぶ) [課題] (復習) 特に扁平上皮がんの分類・治療について整理する(1~2h) (予習) 腫瘍類似疾患とは何かについて考える(1~2h)
9回	顎・口腔領域の腫瘍類似疾患を考える(エプーリスを学ぶ) [課題] (復習) エプーリスの分類・治療について整理する(1~2h) (予習) 唾液腺疾患とは何かについて考える(1~2h)
10回	唾液腺疾患を考える(唾液腺関連疾患・良性・悪性腫瘍を学ぶ) [課題] (復習) 特に唾液腺腫瘍の分類・治療について整理する(1~2h) (予習) 口腔領域の神経疾患とは何かについて考える(1~2h)
11回	口腔領域の神経疾患を考える(顎口腔領域の知覚神経と運動神経の疾患を理解する。) [課題] (復習) 特に三叉神経痛・顔面神経麻痺について整理する(1~2h) (予習) 口腔外科小手術について考える(1~2h)
12回	口腔外科小手術を考える(消炎手術、拔牙術、嚢胞摘出術、歯根端切除術、良性腫瘍摘出術、口腔インプラント術について理解を深める) [課題] (復習) 特に軟組織・硬組織小手術について整理する(1~2h) (予習) 歯科麻酔について考える(1~2h)
13回	局所麻酔と鎮静法を考える(薬について理解し、バイタルサイン、全身偶発症を学ぶ。) [課題] (復習) 鎮静法について整理する(1~2h) (予習) 全身麻酔について考える(1~2h)
14回	全身麻酔と救急蘇生を考える(術前の状態評価と全身麻酔法を理解し、術中管理、救急蘇生、一次救命処置を学ぶ) [課題] (復習) 救急蘇生について整理する(1~2h) (予習) 口腔外科・歯科麻酔についてまとめる(1~2h)
15回	まとめと発表(これまでの授業外での課題も活用しながら総合的なまとめを行い、口腔外科・歯科麻酔の未来に向けた方策や工夫などについて考えてきたことを発表する)
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要となる内容ですので( )の標準学修時間 をめどとして確実に学修しましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】
受講学生へのメッセージ	口腔外科認定医として、または皆さんが多く就職をするであろう開業医の目線でもたくさんのことをお伝えし、皆さんに気づきと口腔を診る楽しみをお伝えできたらと思います。歯だけでなく口腔全体を見るために積極的に参加してもらえたら嬉しいです。質問などあれば遠慮なく来てください。

【4H2S207】矯正歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	杉野 浩孝					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大学病院、歯科医院勤務（12年）					
授業方法	講義と症例検討（討論）を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる歯科矯正領域の様々な問題解決に向けて、思考する能力育成を重視した授業方法をとる					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顎・顔面・頭蓋および歯列の成長発育について理解ができる。</li> <li>・不正咬合の分類、原因、予防について説明ができる。</li> <li>・矯正治療による歯の移動方法が理解ができる。</li> <li>・矯正治療に適用する装置について、名称およびどのような症例に適用可能かについて説明できる。</li> <li>・矯正治療に使用する器具の説明ができる。</li> <li>・患者に対して、矯正治療の動機づけができる。</li> <li>・歯科矯正中の口腔衛生指導・管理について説明ができる。</li> </ul>				
	関心・意欲・態度	歯科矯正に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。				
授業内容	歯科矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因・診断・治療内容について学ぶこと、歯科衛生士が矯正治療での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を行うための基本を身につけることを目標とする。また、不正咬合の原因となる様々な口腔習癖の除去への指導などについても理解を深め、アクティブ・ラーニングを活用して修得できる授業内容とする。学生からの要望やメッセージがあった場合、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	90	-	-	10	100
評価の特記事項	試験は筆記試験（定期試験時）にて評価を行う。受講態度は学修への取組状況によって評価する。					
ICT活用	授業では大型ディスプレイや現物投影機を使用する。動画を活用することもある。必要に応じてポータルサイトに資料をアップロードする。					
アクティブ・ラーニングの活用	講義内容を元として、実際の臨床を想定したテーマに対し解答の解説と同時にディスカッションを行う。					
課題に対するフィードバック	課題については、次回の授業でチェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(3,960円) ISBN:9784263426364					
参考書・教材	必要な資料は授業で配付する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	矯正歯科治療の概要：歯科矯正学の定義、不正咬合による障害、矯正治療の一般的なプロセスについて説明する。矯正治療における歯科衛生士の役割についても言及する。 授業開始にあたり、歯科矯正学の勉強の進め方（予習・復習の仕方など）について、ガイダンスを行う。 [課題（復習）]学修内容を復習し、特に矯正歯科治療における歯科衛生士の役割についてまとめる。(1h)					
2	成長発育：頭部と顔面の成長発育の特徴（成長方向、顎骨の形態変化など）について述べた後、特に上顎・下顎それぞれの発育様式と歯列の成長についても解説する。また、乳歯列、混合歯列、永久歯列の特徴やHellmanの咬合発育段階についても説明する。 [課題（復習）]学修内容を復習し、顎・顔面・頭蓋の成長発育についてまとめる。(1h)					
3	正常咬合：正常咬合の条件について述べ、歯科矯正治療のゴールである個性正常咬合について考える。不正咬合：不正咬合の種類と内容、歯列弓形態の異常や個々の歯の萌出位置の異常について、詳しく説明した上で、それぞれを区別できるように問題演習を行う。 [課題（復習）]学修内容を復習し、特に不正咬合の分類についてまとめる。(1h)					
4	検査診断：矯正歯科治療における検査と診断のプロセスを説明する。各検査項目の目的、検査方法、分析方法について（形態検査、口腔模型分析など）解説し、これらに関わる歯科診療の補助について理解を深める。 [課題（復習）]学修内容を復習し、歯科矯正における診査、診断、治療計画の流れについてまとめる。(1h)					
5	検査診断：矯正歯科治療における検査と診断のプロセスを復習する。前回に続いて、各検査項目の目的、検査方法、分析方法について（側面頭部X線規格写真分析、機能的検査）解説する。また検査後の分析がどのように診断につながるか、診断に伴う抜歯の必要性についても理解を深める。 [課題（復習）]学修内容を復習し、歯科矯正における診査、診断、治療計画の流れについてまとめる。(1h)					
6	矯正力・顎整形力・保定：矯正治療に用いられる物理的な力について学ぶ。 [課題（復習）]学修内容を復習し、矯正力による圧迫側、牽引側での病理学的反応についてまとめる。(1h)					
7	矯正装置：矯正装置の分類、各矯正装置の構造、機能、適応について解説する（固定式矯正装置を中心に）。 [課題（復習）]学修内容を復習し、固定式矯正装置の種類についてまとめる。(1h)					
8	矯正装置：矯正装置の分類、各矯正装置の構造、機能、適応について解説する（可撤式、機能的矯正装置を中心に）。 [課題（復習）]学修内容を復習し、可撤式、機能的矯正装置の種類についてまとめる。(1h)					
9	矯正歯科治療の実際：不正咬合に対する実際の矯正歯科治療について解説する（叢生、上顎前突、下顎前突、上下顎前突など）。 [課題（復習）]学修内容を復習し、不正咬合の診断とその治療についてまとめる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
10	矯正歯科治療の実際：不正咬合に対する実際の矯正歯科治療について解説する（過蓋咬合、開咬、顎変形症など）。また矯正歯科治療に伴う偶発症とその対応についての説明も行う。 [課題（復習）]学修内容を復習し、不正咬合の診断とその治療についてまとめる。(1h)
11	矯正歯科診療時の業務：矯正歯科治療における器材の詳細と使用手順について説明する（主にマルチブラケットなどの装置やその周辺器材について）。 [課題（復習）]学修内容を復習し、器材と使用手順についてまとめる。(1h)
12	矯正歯科診療時の業務：矯正歯科治療における器材の詳細と使用手順について説明する（主にブライヤー類について）。 [課題（復習）]学修内容を復習し、器材と使用手順についてまとめる。(1h)
13	矯正歯科診療時の業務：矯正歯科治療における器材の詳細と使用手順について問題演習を交えながら解説する。また矯正装置に対して、衛生士が行う患者指導について説明する。 [課題（復習）]学修内容を復習し、器材と使用手順についてまとめる。歯科衛生士の実務業務についてまとめる。(1h)
14	口腔筋機能療法、口腔衛生管理：口腔習癖について解説し、口腔筋機能療法の目的、検査方法、訓練内容を説明する。また矯正装置装着中の患者に対する口腔衛生管理についても述べる。 [課題（復習）]学修内容を復習し、口腔習癖の除去と口腔筋機能療法、口腔衛生管理についてまとめる。(1h)
15	まとめ：理解しにくい分野を中心に、今までの授業内容の総復習を行う。 [課題（復習）]個別で理解が難しい箇所をピックアップし重点的に復習する。(1h)
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配付プリントやテキスト等を復習し理解を深めるようにして下さい。わからない点、疑問点があれば講義後に、もしくはメールにて質問して下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来歯科矯正学を担う者としての自覚を十分にもって、予習・復習をきちんと行い授業に積極的に取り組むこと。写真や図をよく見て勉強することが重要です。配布資料に示されている写真や重要事項を完璧に覚えるようにして下さい。オフィスアワーについて、毎回の講義終了後に30分程度、講義室や非常勤講師控え室などで質問等を受けます。

【4H2S208】高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	吉田 康夫					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	吉田 歯科医師(歯学部勤務):20年					
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる障害者歯科並びに高齢者歯科領域の様々な問題解決に向けて思考する基礎知識を獲得する授業である。					
到達目標	知識・理解	1. 障害の概念、障害者歯科の意義、行動調整、生活および歯科的支援について説明できる。 2. 障害の種類と全身および歯科的特徴、歯科的対応と歯科保健について説明できる。 3. 高齢者をとりまく社会の環境について説明できる。 4. 加齢による身体的疾患・精神的疾患および口腔疾患について説明できる。 5. 高齢者の生活機能の評価について説明できる。				
	思考・判断・表現	高齢者や障害者を理解し、適切な治療法や処置等を選択できる思考を養う。				
授業内容	わが国は超高齢社会を迎え、高齢者の口腔の健康維持・増進には、高齢者それぞれの身体的・精神的状況に応じた適切な口腔健康管理の実践が緊急の課題になっている。また、障害者歯科は、障害者の健康な生活を支援するために、安全で障害特性や生活状況を踏まえた歯科医療を提供することである。この科目では、高齢者・障害者への歯科的支援を実際に行うための基盤となる専門的知識を修得できることをねらいとする。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記	90	-	-	-	90
	自己評価	-	10	-	-	10
	合計(点)	90	10	-	-	100
評価の特記事項	筆記試験 90点(海原45点 小原45点)で知識・理解を評価し、自己評価では、授業での取り組みでの関心・意欲・態度の評価をします。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験の受験資格はありません。					
ICT活用	ポータルやGoogleクラスルームを用いて質問等に対応します。必要に応じてポータルサイトやクラスルームに資料をアップロードします。					
アクティブ・ラーニングの活用	PBLを小グループ討論で行います。					
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については、次回の授業で確認テストを実施し知識の整理を行います。障害者歯科の授業時間に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行います。また、知識が身についているかどうかを確かめるために、授業中に問題演習を行います。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(4,840円) 『歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(2,640円)					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	編 高齢者をとりまく社会の環境:1章 高齢社会と健康、2章高齢者にかかわる法制度:老人保健・医療・福祉対策の経緯について概略を述べ、学ぶ。 [課題(復習)]高齢者にかかわる法制度について調べる。(1h)					
2	編 高齢者をとりまく社会の環境:介護保険制度、高齢者の居住形態・施設について特徴を学ぶ。 [課題(復習)]介護保険制度の内容についてまとめる。(1h)					
3	編 加齢による身体的・精神的変化と疾患:加齢に伴う身体的機能の変化について学ぶ。 [課題(復習)]加齢に伴う身体的機能の変化についてまとめる。(1h)					
4	8回~10回の課題について確認する。 編 加齢による身体的・精神的変化と疾患:高齢者の精神・心理的变化について学ぶ。 [課題(復習)]高齢者の精神・心理的变化についてまとめる。(1h)					
5	編 加齢による身体的・精神的変化と疾患:高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患について学ぶ。 [課題(復習)]高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患についてまとめる。(1h)					
6	編 高齢者の状態の把握:高齢者の生活機能の評価 生活・ADL等の評価を学び、認知機能の評価項目を理解するためにロールプレイを行い、討論する。 [課題(復習)]高齢者の生活機能の評価について復習する。(1h)					
7	IV編 口腔健康管理 高齢者・周術期患者・末期患者の口腔健康管理を学ぶ [課題(復習)]周術期患者・末期患者の特徴を復習する。(1h)					
8	障害者の現況と歯科診療:障害者の概念について述べ、障害者歯科の意義、障害者の生活と歯科的支援について解説する。 [課題(復習)]障害者歯科の特徴についてまとめる。(1h)					
9	障害の種類と歯科的特徴:精神遅滞、ダウン症候群、自閉性障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかん、重症心身障害の歯科的特徴について理解する。 [課題(復習)]障害の種類と全身所見および歯科的特徴についてまとめる。(1h)					
10	障害者の服用薬と歯科保健:障害者の服用薬と歯科保健について学ぶ。 [課題(復習)]障害者の服用薬と歯科保健について調べる。(1h)					
11	1回~3回までの課題を確認する。 障害者歯科における歯科衛生士の役割:障害者への対応の仕方の基本、業務記録の管理、摂食嚥下障害について学ぶ。 [課題(復習)]障害者に対する基本的対応や業務記録とその管理、摂食嚥下障害への対応についてまとめる。(1h)					
12	障害者の歯科診療と歯科診療補助:障害特性を踏まえた歯科診療補助、歯科治療時の工夫と留意点、行動調整について、障害別の対応について学ぶ。 [課題(復習)]障害特性を踏まえた歯科診療補助や患者対応についてまとめる。(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
13	障害者の口腔保健管理：歯科衛生士から障がい者への口腔保健管理の留意点と実際について学ぶ。 [課題（復習）]障害者の口腔保健管理をする上での留意点と方法についてまとめる。（1h）
14	障害者の歯科保健指導：歯科衛生士から障害者への歯科保健指導の留意点と実際について解説する。 1回目から6回目までの内容の総復習をする。 [課題（復習）]障害者への歯科保健指導の留意点と実際についてまとめる。（2h）
15	障害者歯科・高齢者歯科で学んだ知識のまとめ
時間外での学修	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布資料やテキスト、復習テストの内容をよく勉強し理解を深めるようにして下さい。授業内容について復習テストを行いますので、授業やプリントを通じて示された重要項目をしっかりと復習をして下さい。わからない点、疑問点はオフィスアワー等に質問にきてください。[課題]は授業の到達目標に必要な内容ですので（ ）の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修をすすめましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	将来歯科衛生士として、高齢者や障害者歯科等の歯科医療を担う一員としての自覚を十分に持ち、予習・復習を行い、授業に積極的に出席して下さい。 オフィスアワーは、木曜日5時限 研究室（G305：G号館3F）です。



【4H2S109】医療保険		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員							
資格・制限等	特になし						
実務家教員							
授業方法	講義を主とし、歯科疾患の進行状況に沿った症状とそれに対する病名、処置内容についての理解を深める。症例別の保険請求の方法について学修する。授業に発表や討論も取り入れる。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。						
到達目標	知識・理解	保険医療制度の規則や規約を知った上で、歯科診療における傷病名や処置・検査・薬剤等についての基本的な知識を理解できる。					
	関心・意欲・態度	多種にわたる歯科治療について、カルテの内容の解釈や保険請求の方法などに関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP+到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科治療の内容と流れを把握し、将来医療従事者として必要な医療保険に関する基礎知識、診療録の整理、診療報酬明細などの診療室における業務について学ぶ。学生からの要望やメッセージがあった場合には、学生ポータルでのメール対応、個人指導など様々な方法の中から最善のものを選んで対応する。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		90	-	-	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		90	-	-	10	100
評価の特記事項							
ICT活用	授業では大型ディスプレイや現物投影機を使用する。動画を活用することもある。必要に応じてポータルサイトに資料をアップロードする。						
アクティブ・ラーニングの活用	復習テストを行った後、解答の解説と同時にディスカッションを行う。						
課題に対するフィードバック	授業の最後に提示した課題については、次回の授業で回収し、チェックした上で解説を行う。また、知識が身についているかどうかを確かめるため、授業中に問題演習を行う。						
テキスト	『歯科保険請求マニュアル 令和4年度版 歯の知識と請求の実務』高橋一祐・野沢明子・歯科保険請求研究会 医歯薬出版(6,820円)ISBN:978-4-263-44709-3						
参考書・教材	適宜紹介または配付する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	保険の基礎知識、レセプトと保険請求の仕組み (レセプトの基礎知識と医療保険の位置づけ、請求明細書の書き方、略記号などを学ぶ。) [課題(復習)]レセプトと保険請求の仕組みを復習し、まとめる(4h)						
2	請求明細書の書き方 (基本診療料、指導管理等、画像診断 エックス線検査、検査関連などについて学ぶ。) [課題(復習)]請求明細書の書き方について復習し、まとめる(4h)						
3	初期う蝕の治療の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。1、2の課題の確認も行う。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)						
4	歯髄・根管処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)						
5	歯周治療の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)						
6	歯冠修復やブリッジ処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)						
7	有床義歯処置の流れとカルテの記載および保険請求 (各症例における保険点数算定の留意事項などについて考える。) [課題(復習)]レセプト記載が正しくできるよう症例別にカルテの記載や保険算定の留意事項を復習し、まとめる(4h)						
8	傷病名、処置・手術名、歯科用医薬品など歯科の診療録および診療報酬明細書に使用できる略称について (3~7の課題の確認も行う。) [課題(復習)]診療録の内容が理解できるよう略称を確実に覚えるようにし、まとめる(4h)						
時間外での学修	歯科医療に携わる際、歯科保険診療の略称や保険請求などに関する知識は必須です。まだ実際に歯科医療に従事していない学生にとっては、とっつきにくい内容であるかもしれません。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：32時間】						
受講学生へのメッセージ	歯科疾患名と診療手順をよく理解しておくことが必要です。2年生の前期までに学修した臨床科目の基礎的知識を再確認しておきましょう。オフィスアワーは研究室で毎週木曜日の5時限目16:20~17:50です。						

【4H2A111】臨床医学		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	必修	講義	15時間		
教員	竹中 裕						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	理学療法士 16年						
授業方法	スライド・映像を用いた講義形式です。 リハビリテーションを学ぶために必要な心身機能について理解を深めるための演習も実施します。						
到達目標	知識・理解	リハビリテーション医療・実務についての理解を深める					
	思考・判断・表現	リハビリテーションを受ける必要がある方々の心身機能障害、日常生活動作制限について適切に説明ができる					
	技能	リハビリテーションチームの一員としての歯科衛生士の役割を知る					
	関心・意欲・態度	演習や課題を通じてリハビリテーションに関連する基本技術や機器の特性を理解し、臨床に結び付ける					
授業内容	リハビリテーション実務の概要、脳血管障害後や外傷後のリハビリテーション臨床の実際を映像を用いて説明していきます。近年、病院でも歯科衛生士が勤務するケースも散見されますが、その役割について理解を深めていきます。病院で行われているリハビリテーションの実際を実技・実演を交えながら伝達することで、摂食嚥下リハビリテーションに関する知識と臨床が結びつく起点となると考えます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		70	-	-	-	70
	講義毎の確認テスト		-	15	-	-	15
	実演		-	-	5	-	5
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		70	15	5	10	100	
評価の特記事項	定期試験(知識・理解)、講義毎に実施する確認テスト(思考・判断・表現)で評価を行います。講義内では演習・実技も実施する予定ですが、記録の有無や受講態度も評価に加味します。欠席回数と単位授与の可否に関しては本学教育要領に沿って決定します。						
ICT活用	確認テストはGooglefoamを用いて実施します						
アクティブ・ラーニングの活用	上下肢ストレッチング、運動学習(手指動作)、呼吸理学療法の一部を体験学習として実施します。						
課題に対するフィードバック	Google classroomを用いたフィードバックを実施します。確認テストは採点后にGoogle classroom内で正誤確認ができます。						
テキスト	レジメを用いた講義を行うため、テキストは用いません。						
参考書・教材	特にありません。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	概論(リハビリテーションの領域で働く職種・業務内容を解説する) [準備・予習]本学で学んだ摂食嚥下リハビリテーションについて復習する(3h)						
2	脳血管障害発症後のリハビリテーション(1)(急性期・回復期のリハビリテーション、脳血管障害発症後に変化する心身機能について理解を深める。) [準備・復習]脳血管障害発症後急性期に実施できる口腔ケアについてまとめる(6h)						
3	脳血管障害発症後のリハビリテーション(2)(回復期・生活期のリハビリテーションについて学び、脳血管障害発症後の患者様が如何にして在宅での生活を再建していくのか知る) [準備・復習]回復期・維持期に実施できる口腔ケア、摂食嚥下に関する支援についてまとめる(6h)						
5	高次脳機能障害のリハビリテーションと運動学習(脳卒中や頭部外傷後におこる脳の障害の大枠を学び、それらに対して行われる作業療法や言語聴覚療法を知る。運動学習について実演を行う) [復習・課題]高次脳機能障害が摂食嚥下機能に与える影響について復習する(5h)						
5	運動器のリハビリテーション(脊髄疾患・脊椎術後のリハビリテーション、顎関節に対する運動療法について知る。) [準備・予習]自分自身の顎関節・頸椎・胸腰椎可動域について把握・理解しておく(5h)						
6	摂食・嚥下リハビリテーション(1)(リハビリテーション目的で入院される患者様に対する口腔ケアの特殊性、嚥下障害への対応について理解する。) [復習・課題]顎部機能と口腔機能が密接に関係していることを復習する(4h)						
7	摂食・嚥下リハビリテーション(2)(嚥下障害の確定診断である嚥下造影検査、近年注目されている嚥下内視鏡検査の実務について学ぶ。歯科衛生士が参加する機会が増加している栄養サポートチーム(NST: Nutrition Support Team)について理解する。) [復習・課題]これまで本学で学んだ摂食嚥下リハビリテーションの資料・講義内容を振り返るとともに、チームアプローチの意義について復習する(6h)						
8	リハビリテーション医学(運動療法の根拠となっている理論について学ぶ。本講義の振り返りを行う) [復習・課題]本講義で学んだ内容を振り返る(6h)						
時間外での学修	講義内で簡単な運動を行うことで自身の心身機能を変化させる取り組みを行います。運動課題は講義内で提示します。簡単な運動でも目的を持って取り組むことで身体機能に影響を与えることを実感できることが運動療法を理解することの第一歩です。講義時間外でも取り組んで頂ける内容をお伝えしていきます。						
受講学生へのメッセージ	知識の入力のみでなく映像を通じて臨床現場で実践されているリハビリテーションの場面を知ることができる講義です。また、運動プログラムの実演を取り入れることで主体的な参加・学びを促しています。オフィスアワーは講義日の非常勤講師控室で16時~16時20分です。						

【4H3S404】歯周病予防技術法		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	今井 藍子・川島 智子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	川島：歯科医院歯科衛生士・6年 今井：歯科医院歯科衛生士・10年						
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を学び、基礎実習で歯石除去技術を身につけ、相互実習で口腔内に応用します。						
到達目標	知識・理解	スケーリング・ルートプレーニング (SRP) に使用するスケーラーの種類と特徴が説明できる。 歯周治療におけるスケーリング・ルートプレーニングの概要が説明できる。					
	思考・判断・表現	相互実習の術式、内容を示すことができる。 相互実習で生体への配慮を示すことができる。					
	技能	スケーラーのシャープニング方法を理解し実施する。 SRPの部位別操作法を理解し、マネキンに対し基本操作を実施する。					
	関心・意欲・態度	主体的に知識・技能の修得に取り組むことができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	「歯周病予防技術法」 「歯周病予防技術法」 同様実習科目です。キュレットスケーラーを用い歯肉縁下の歯石除去法の技術を修得します。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	定期試験		40	-	40	-	80
	レポート		-	10	-	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	10	40	10	100
評価の特記事項	定期試験は実技試験・筆記試験とともに、それぞれ6割以上を合格とする。 受講態度は身だしなみ・忘れもの等とします。						
ICT活用	ICTを利用した自主学修支援 学生ポータル、クラスルーム、メールを利用し質問等を受け付けます。						
アクティブ・ラーニングの活用	マネキン実習した後、学生同士相互で実習をします。 実習後、レポートを作成します。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、小テストを回収後、解答の解説を行います。 レポートのコメントを返します。						
テキスト	『最歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版(9,020円) ISBN:978-4-263-42607-4 『最歯科衛生学シリーズ 歯周病学』医歯薬出版(3,850円) ISBN:978-4-263-42616-6 1年次に購入済						
参考書・教材	その他の資料は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	キュレットスケーラーの基礎：キュレットスケーラーの特徴を理解する。 [課題(復習)]キュレットスケーラーの基礎知識の復習をする。(1h)						
2	シャープニング法：課題の確認。キュレットスケーラーのシャープニングを実習する。 [課題(復習)]キュレットスケーラーをシャープニングし提出する。(1h)						
3	マネキン実習 (前歯)：課題を確認。キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを実習する。 [課題(復習)]前歯のスケーリングの操作の復習をする。(1h)						
4	マネキン実習 (下顎臼歯)：課題を確認。キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを実習する。 [課題(復習)]下顎臼歯のスケーリングの操作の復習をする。(1h)						
5	マネキン実習 (上顎臼歯)：課題を確認。キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを実習する。 [課題(復習)]上顎臼歯のスケーリングの操作の復習をする。(1h)						
6	マネキン実習のまとめ：課題を確認。キュレットスケーラーの基本操作を復習する。 [課題(復習)]キュレットスケーラーの基本操作を復習する。(1h)						
7	実技チェック：キュレットスケーラーの基本操作を試験形式で確認する。 [課題(復習)]キュレットスケーラーの基本操作を復習する。(1h)						
8	相互実習 (前歯)：キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省、術式をまとめる。(1h)						
9	相互実習 (下顎臼歯)：キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省、術式をまとめる。(1h)						
10	相互実習 (上顎臼歯)：キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを相互に実習する。 [課題(復習)]相互実習を振り返り生体への配慮、反省、術式をまとめる。(1h)						
11	歯周基本治療について・実技総まとめ：課題の確認。歯周治療のながれについて学ぶ。キュレットスケーラーの使用方法やシャープニングについて復習する。 [課題(復習)]キュレットスケーラーの使用方法、シャープニングと歯周治療の流れの復習をする。(1h)						
12	まとめ：課題の確認。キュレットスケーラーの種類を理解する。これまでの総復習。 [課題(復習)]キュレットスケーラーの種類を復習をする。(1h)						
時間外での学修	口腔内で鋭利な器具を使用するため確実な操作が必要であり、一定以上の知識・技術レベルが要求されます。授業時間以外にも自ら練習をして技術を向上させてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：12時間】						

受講学生への  
メッセージ

本科目は、回数を経るごとに知識学修 基礎実習と進んでいきます。授業を欠席すると次のステップに進むために大変な努力を要します。体調管理を徹底し、欠席をしないようにしてください。  
オフィスアワーは研究室で木曜日の5限です。

【4H3S206】う蝕予防処置法		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	大谷 悦世・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大谷：歯科医院・介護施設他、歯科衛生士：13年 今井：歯科医院歯科衛生：10年					
授業方法	この授業では「齶蝕予防処置法」で学んだう蝕のプロセス・リスク・プロフェッショナルケアの重要性を理解した上で、う蝕を予防するための具体的な方法を学び、患者指導を含めたう蝕予防法の知識、技能を修得していきます。					
到達目標	知識・理解	う蝕予防処置法の種類とその作用機序、効果、適応症、禁忌症を説明できる				
	思考・判断・表現	各種う蝕予防処置法の術前説明と術後指導を述べ、業務記録を書くことができる				
	関心・意欲・態度	う蝕予防処置法の知識修得のため、積極的に学習に取り組むことができる				
授業内容	演習・実習が中心となります。各項目において授業で知識を修得のち、基礎実習やグループでの相互実習を行い理解を深めます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験	75	-	-	-	75
	課題・レポート	-	15	-	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	75	15	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取り組み状況、提出物の提出期限、身だしなみ、忘れ物、実習当番参加状況等で評価します。					
ICT活用	学生ポータルGoogle classroomで質問等に対応します。					
アクティブラーニングの活用	実習を行います。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42863-4 『歯科衛生士のための齶蝕予防処置法 第2版』医歯薬出版株式会社(3,960円) ISBN:978-4-263-42241-0					
参考書・教材	必要な資料は配布します					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業ガイダンス フッ化ジアンミン銀の基本知識について、患者説明用チャート作成について学修する。 【課題(復習)】フッ化ジアンミン銀の応用について復習する。基本知識を理解する患者説明用チャート作成に必要な資料を収集する(2h)					
2	患者説明用チャートを作成する 【課題(復習)】患者説明用チャート作成に必要な資料を収集、作成する(2h)					
3	フッ化物集団応用法の基本知識を理解する フッ化物集団応用法(洗口法)の相互実習 【課題(復習)】フッ化物集団応用法の基本知識について復習する(2h)					
4	フッ化物局所応用法 フッ化物歯面塗布法(綿球法、歯ブラシ法)の相互実習 【課題(復習)】フッ化物歯面塗布法について復習する。フッ化物歯面塗布法(綿球法、歯ブラシ法)の特徴、手順、注意点をまとめる(2h)					
5	フッ化物歯面塗布 フッ化物歯面塗布法(トレー法)の相互実習 【課題(復習)】フッ化物歯面塗布法(トレー法)の特徴、手順、注意点をまとめる(2h)					
6	小窩裂溝充填塞法 各種小窩裂溝充填塞法の基礎知識と術式を理解し顎模型上で実習 小窩裂溝充填塞法 レジン系小窩裂溝充填塞材を使用し相互実習 【課題(復習)】小窩裂溝充填塞法の特徴と術式をまとめる(2h)					
7	小窩裂溝充填塞法 レジン系小窩裂溝充填塞材を使用し相互実習 【課題(復習)】小窩裂溝充填塞法の手順を復習する(2h)					
8	まとめ：第1～第7回までの講義および演習の振り返りと知識の確認を行う。 【課題(復習)】う蝕を予防するための具体的な方法について復習する(2h)					
時間外での学修	「齶蝕予防処置法」の基礎知識を十分理解した上で受講してください。実習では「診療補助応用」でフッ化ラバーダム防湿を行うものがあります。相互実習前に復習しておいてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	1年次に履修した「口腔衛生学」「齶蝕予防処置法」に関連しています。十分に復習してからこの授業に臨んでください。また、健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。 オフィスアワーは研究室で木曜日5限です。					

【4H3A208】口腔健康管理演習		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	大谷 悦世・藤塚 未子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	大谷：歯科医院・介護施設他、歯科衛生士13年 藤塚：歯科医院・総合病院 歯科衛生士5年					
授業方法	口腔衛生管理や口腔機能管理に関する講義・演習・実習を行います。					
到達目標	知識・理解	全身管理と周術期の口腔健康管理について理解する 要介護高齢者に対する口腔健康管理に必要な技術を理解する 義歯の清掃と取扱いについて、注意事項を述べる。 口腔健康管理の手順について理解する 車椅子を操作し安全な介助について理解する				
	思考・判断・表現	課題レポートについて、提示された内容を思考・作成することができる				
	関心・意欲・態度	自己の体調管理を行い、主体的に学修に取り組むことができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	口腔健康管理は、「口腔衛生管理」と「口腔機能管理」に大別されます。その「口腔衛生管理」は、誤嚥性肺炎の予防にもつながります。本科目では、前期で修得した摂食嚥下リハビリテーションの知識・技術を活かし、在宅や施設・病院など、生活・療養環境および全身状態を考慮した口腔健康管理を実践するための基本知識や基本技術を学修します。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	80	-	-	-	80
	課題	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	80	10	-	10	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取り組み、課題提出状況とします。					
ICT活用	学生ポータルやGoogle classroomで質問等に対応します。					
アクティブ・ラーニングの活用	実習やゲストスピーカーによる演習を行います。					
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ『高齢者歯科学』』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(4,840円)ISBN:978-4-263-42633-3 『『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』』公益社団法人 日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版株式会社(4,180円)ISBN:978-4-263-42264-9					
参考書・教材	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(第2版) 医歯薬出版株式会社 (1年次購入済み) 準備物は毎回掲示します。必要な資料は配付します。					
		内容				
実施回	授業内容・目標					
1	全身管理と周術期の口腔健康管理 周術期の口腔衛生状態の管理の有効性について学ぶ [課題(復習)]全身管理と周術期の口腔健康管理について復習する(2h)					
2	全身管理と周術期の口腔健康管理 周術期の口腔衛生状態の管理の有効性について学ぶ [課題(復習)]全身管理と周術期の口腔健康管理について復習する(2h)					
3	口腔健康管理に用いる歯磨剤、保湿剤について 外部講師による講義・実習 [課題(復習)]口腔健康管理に用いる歯磨剤、歯磨剤について復習する(2h)					
4	まとめ 第1～第3回までの講義および演習の振り返りと知識の確認を行う(まとめ試験) [課題(復習)]全身管理と周術期の口腔健康管理について復習する(2h)					
5	口腔健康管理の概念について学び、口腔衛生管理に使用する口腔清掃用品、要介護高齢者に対する口腔健康管理に必要な技術を学ぶ。 [課題(復習)]口腔健康管理の意義と目的をまとめ、口腔清掃用品の種類、口腔健康管理に必要な技術について復習する。(2h)					
6	・介助磨き法の基本技術を相互で実習する。 ・車椅子の取扱い・使用方法を学び、安全に操作・介助できるように実習する。 [課題(復習)]介助磨き法の基本技術を復習し、相互実習から術者としての改善点を挙げる。車椅子体験から車椅子利用者への配慮を考察する。(2h)					
7	・高齢者疑似体験を通して、安全に歩行介助をできるように実習する。 ・ベット・チェア上で、口腔衛生管理(義歯着脱方法・吸引器の取扱い・口腔衛生管理に使用する用品)のについて実習する。 [課題(復習)]口腔衛生管理の基本技術を復習し、術者としての改善点を挙げる。高齢者疑似体験から要介護高齢者への配慮を考察する。(2h)					
8	まとめ 第5回～第7回までの講義および演習の振り返り [課題(復習)]これまでの講義内容を復習し、知識を整理する(1h)					
時間外での学修	[課題]は授業の到達目標に必要な内容ですので( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での学修時間：15時間】					

受講学生への  
メッセージ

前期で履修した「摂食嚥下リハビリテーション学」「高齢者歯科学」に関連しています。復習を行い授業に臨んでください。また、欠席しないよう、自己の健康管理をおこなってください。テオフィスアワーは研究室で木曜日の5限です。

【4H4S203】保健指導法		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	川島 智子・今井 藍子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	川島智子：歯科医院歯科衛生士6年 今井藍子：歯科医院歯科衛生士10年					
授業方法	2人組での相互実習(ロールプレイ)、もしくはグループディスカッションで授業を進めていきます。情報収集を行った結果を整理・分析して問題点を読み取っていきます。診査表や分析結果などの記録用紙は提出していただきます。					
到達目標	知識・理解	医療面接の目的を説明できる 各種口腔内診査の目的や方法が説明できる 症例から情報の整理・分類、問題点の明確化、介入計画の立案ができる				
	思考・判断・表現	医療面接で患者の主観的情報を収集することができる 口腔内診査から患者の客観的情報を収集することができる 対象者の情報収集・分析結果から評価ができる 情報収集で得られた内容から対象者に合わせた介入計画・実施ができる 歯科衛生過程のすべてのプロセスを画面化して記録することができる それぞれの対象者についてグループでディスカッションができる				
	技能	各種口腔内診査や口腔清掃状態の検査ができる 対象者に口腔内診査の結果や口腔衛生状態を説明できる 対象者に各種清掃用具の選択と使用方法の指導ができる				
	関心・意欲・態度	医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学修や課題を積極的に取り組むことができる				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯科保健指導とは、個人を対象としてその人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための、専門的な立場からの助言や援助をいいます。歯科衛生過程の考え方を基に、対象者のニーズに合った歯科保健指導をするための、情報収集・情報処理、問題点の明確化、介入計画、実施などを相互実習やグループワークを通して行います。また、実習を通してコミュニケーション力を養うことを目的としています。「歯科保健指導基礎」「保健指導法」で学んだ知識や技術を基盤として相互に実習をすることで理解を深めます。歯科衛生過程を学ぶ上での入り口となる授業です。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	50	-	-	-	50
	実技試験	-	-	10	-	10
	グループワーク	-	10	-	10	20
	レポート	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	60	10	10	20	100	
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けるが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。 筆記試験では、歯科衛生過程、各種検査・指数、歯周病に関する知識などについて評価します。レポートは、自分の考えを表現できているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られたかなどについて評価します。実技試験では、相互実習時に医療面接時や保健指導時の術者の態度、清潔不潔に対する配慮、技術の正確さや患者への配慮などを評価します。受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ、忘れ物等などの状況を評価します。					
ICT活用	保健指導に必要な情報をインターネットを活用して収集します。集めた情報をもとに、保健指導チャートを作成していきます。					
アクティブラーニングの活用	ロールプレイ、グループワーク、プレゼンテーション					
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(9,020円)ISBN:978-4-263-42607-4 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』医歯薬出版株式会社(6,380円)ISBN:978-4-263-42622-7 『歯科衛生士臨床のためのQuint Study Club 診査関連編1 しっかり測定できる! 歯周組織検査パーフェクトブック』クインテッセンス出版(3,520円)ISBN:978-4-7812-0039-2 『歯科衛生学シリーズ 歯周病学』医歯薬出版株式会社(3,850円)ISBN:978-4-263-42616-6					
参考書・教材	必要に応じてハンドアウトを配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	保健指導法の授業の概要、次回相互実習の流れの確認。 [課題(復習)]次回相互実習に必要な知識・技術の確認をする(2h)					
第2回	情報収集：口腔内診査(PD、BOP、ブランクチャート)他、対象者の情報を相互で収集する [課題(復習)]健康調査票・口腔内診査表仕上げ、S・Oデータを抽出する。(2h)					
第3回	情報収集：口腔内診査(PD、BOP、ブランクチャート)他、対象者の情報を相互で収集する [課題(復習)]健康調査票・口腔内診査表仕上げ、S・Oデータを抽出する。(2h)					
第4回	情報の整理分類：情報を整理分類し、分析しながら問題点等抽出する。 [課題(復習)]健康調査票・口腔内診査表仕上げ、情報の整理分類シートを仕上げる。(2h)					
第5回	まとめ：第1~4回のまとめをする。マズローの階層欲求説についてまとめる。 情報の整理分類：情報を整理分類し、分析しながら問題点を抽出する。 [課題(復習)]自分が分析した情報について確認する。(2h)					
第6回	グループワーク(計画立案)：抽出された問題点より、介入計画を立案する。 ブラッシング技術の確認：2~4回目の課題確認。患者にブラッシング方法を伝達するための技術を確認する。 [課題(復習)]情報の分析：整理された情報をもとに、対象者へのブラッシングに関する指導案を作成する(2h)					



内容	
実施回	授業内容・目標
第7回	グループワーク(発表)：指導計画を発表し、他の学生の指導計画を評価する。 まとめ：第1回から第7回のまとめをする。 [課題(復習)]他の学生の評価を参考に指導計画を改善する。(2h)第1～8回のまとめを行う。(2h)
第8回	まとめ：第1回から第7回の知識の確認を行う。(筆記試験)
時間外での学修	正確に口腔内の状況を判断できる力を身に付けるようにしてください。グループ演習や相互実習が中心となりますので、各自責任をもって相互実習に向けて準備・課題をしっかり行ってください。また、相互実習時における感染予防対策に関する注意事項の確認と準備を徹底して行ってください。保健指導用チャートは、時間外での作成が主となります。[この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：16時間]
受講学生へのメッセージ	課題は指定された日時に提出してください。オフィスアワーはG405で木曜日5限目です。

【4H4A205】発達口腔保健演習		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	川島 智子					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	川島 智子：歯科医院歯科衛生士歴6年					
授業方法	講義および演習形式で行います。					
到達目標	知識・理解	学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等の一般的特徴を説明できる。 学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等の口腔の特徴を説明できる。 学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等の歯科保健行動を説明できる。 学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等の食生活指導のポイントを説明できる。				
	思考・判断・表現	学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等の口腔衛生指導を計画立案できる。				
	技能	青年期の口腔衛生指導に必要な指導媒体を作製することができる。				
	関心・意欲・態度	医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる。 授業参加のために準備学修や課題を積極的に行うことができる。				
授業内容	ライフステージ別（学齢期・青年期・成人期・老年期・要介護高齢者・障がい者等）の一般的特徴と口腔の特徴を理解し、対象者に応じた歯科保健指導および食事指導が行えるように、歯科の特徴や問題点を確認し、歯科保健対策を考えていきます。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	60	-	-	-	60
	課題提出	10	-	-	-	10
	グループワーク	-	10	10	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	70	10	10	10	100	
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けるが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。 レポートは、自分の考えを表現できているか、専門用語が正しく用いられているか、誤字脱字がないか、提出期限が守られたかなどについて評価します。グループワークでは、青年期の口腔衛生指導に必要な指導媒体について検討します。実際の操作と保護者への説明方法について評価します。受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ、忘れ物等などの状況を評価します。					
ICT活用	学生ポータルや classroomで質問等に対応します。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク プレゼンテーション					
課題に対するフィードバック	授業内で行います。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』医歯薬出版株式会社(6,380円) ISBN:978-4-263-42622-7 『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(9,020円) ISBN:978-4-263-42607-4					
参考書・教材	最新歯科衛生士教本『栄養と代謝』医歯薬出版株式会社 その他、必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ライフステージにおける歯科衛生介入＜学齢期＞ 一般的特徴と口腔の特徴を学ぶ [課題(復習)]戦後の健康づくり対策と地域歯科保健の変遷について復習する(1h)					
2	ライフステージにおける歯科衛生介入＜学齢期＞ 学齢期の健康と栄養に関する問題点を提示し、特に歯科疾患と食生活指導の関連性を考える。 [課題(復習)]学齢期・青年期の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)					
3	ライフステージにおける歯科衛生介入＜青年期＞ 青年期の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ 青年期の食生活の特徴と栄養について学ぶ [課題(復習)]青年期の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)					
4	ライフステージにおける歯科衛生介入＜成人期＞ 成人期の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ [課題(復習)]成人期の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)					
5	ライフステージにおける歯科衛生介入＜成人期＞ 成人期の健康と栄養に関する問題点を提示し、特に歯科疾患と食生活指導の関連性を考える [課題(復習)]成人期の食生活の特徴と栄養について復習する(1h)					
6	ライフステージにおける歯科衛生介入＜老年期＞ 老年期の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ [課題(復習)]老年期の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)					
7	ライフステージにおける歯科衛生介入＜老年期＞ フレイル・サルコペニアについて学ぶ 口腔の機能的問題の把握(口腔機能の評価) [課題(復習)]老年期の栄養と口腔機能について復習する(1h)					
8	ライフステージにおける歯科衛生介入＜老年期＞ 老年期の食生活の特徴と栄養について学ぶ 摂食嚥下障害と栄養について学ぶ [課題(復習)]老年期の栄養と口腔機能について復習する(1h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
9	ライフステージにおける歯科衛生介入<老年期 > 症例検討：老年期 老年期の栄養と口腔機能の関連について学ぶ 老年期の身体的特徴と口腔機能を知り、歯科保健指導を学ぶ [課題(復習)]老年期の口腔の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)
10	配慮を要する者への歯科衛生介入<要介護高齢者 > 要介護高齢者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ [課題(復習)]要介護高齢者の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)
11	配慮を要する者への歯科衛生介入<要介護高齢者 > 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養について学ぶ 要介護高齢者の摂食能力、咀嚼機能の評価について学ぶ 配慮を要する者への歯科衛生介入<障害児者 > 障害児者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健指導を学ぶ 障害児者の食生活の特徴と栄養について学ぶ [課題(復習)]要介護高齢者の栄養と口腔健康管理について復習する(1h) [課題(復習)]障害児者の特徴と歯科保健指導について復習する(1h)
12	大規模災害被災者に対する歯科保医療 避難時における支援活動と避難者への歯科保健指導について学ぶ [課題(復習)]避難時における支援活動と避難者への歯科保健指導について復習する(1h)
13	義歯の取扱いと義歯洗剤・安定剤の特徴と取扱いの注意点を学ぶ(外部講師) [課題(復習)]義歯の取扱い洗剤の種類についてまとめる(1h)
14	まとめ1 これまで学んだ各ステージの特徴と歯科保健指導について復習する 幼児教育学科2年生との交流実習 [課題(復習)]これまでの講義内容を復習し、知識を整理する(1h)
15	まとめ2 これまで学んだ内容について総復習する [課題(復習)]これまでの講義内容を復習し、知識を整理する(1h)
時間外での学修	各ライフステージの特徴を図書館やインターネットを活用して調べ学習をします。各回で課題提出があります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	課題は指定された日時に提出してください。オフィスアワーはG405で木曜日5限目です。

【4H4S406】地域歯科保健活動		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	必修	実習	45時間		
教員	川島 智子・今井 藍子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	川島智子：歯科医院歯科衛生士6年 今井藍子：歯科医院歯科衛生士10年						
授業方法	実習とグループワークが中心となります。グループワークでは、KJ法などを用いて学生同士で積極的に意見交換をしながら、コミュニケーション力を高めます。本学で開催される「子育てサロン」へ実習に行きます。						
到達目標	知識・理解	健康教育の場の特徴や対象者について説明できる 健康教育の進め方、方法について説明できる 地域歯科保健活動のフィールドについて説明できる ブレインストーミングやKJ法について説明できる 健康教育における歯科衛生士の役割、関連法規を説明できる					
	思考・判断・表現	乳幼児期・学齢期(小学生)・青年前期(高校生)の実態を調査し把握することができる。 乳幼児期・学齢期(小学生)・青年前期(高校生)に対する歯科健康教育計画が立案できる ブレインストーミングやKJ法を活用して問題解決をすすめることができる					
	技能	乳幼児の保護者を対象にリーフレットなどを活用して保健指導を実施することができる					
	関心・意欲・態度	グループ演習や実習(現場)に対して能動的に取り組むことができる 医療人としての自己管理や受講態度への配慮ができる 授業参加のために準備学修や課題を積極的に行うことができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くことは、口腔の健康の維持・増進のためにはきわめて重要なことです。この授業では『ヘルスプロモーション』理論を理解します。さらに、子育てサロンや地域の高校生への保健指導、小学校への健康教育実施計画立案をとあして、地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くために必要な知識、技能の修得を目的としています。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	-	-	-	40
	課題提出		-	10	-	-	10
	グループ演習・発表		-	10	10	-	20
	実技試験(子育てサロン)		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)	40	25	15	20	100	
評価の特記事項	提出する課題はすべてペン書きで清書してください。課題は提出期限を遅れた場合でも受け付けますが遅れた日数により減点があります。また他の受講生のレポートを写すなどの不正行為があった場合、評価は0点となるため注意してください。課題提出は、ライフステージ毎に課される歯科健康教育計画の内容とについて評価します。 演習参加度は、乳幼児の保護者への歯科保健指導に使用する媒体作製、小学校実習に向けての原稿・媒体作製についての内容とその際の演習への参加度について評価します。 受講態度は学修への取り組み、課題提出、身だしなみ・忘れ物などの状況の評価します。						
ICT活用	ライフステージ毎の特徴を把握するために、授業内でインターネットを活用して情報収集を行います。						
アクティブラーニングの活用	グループワーク フィールドワーク 他学科との交流実習						
課題に対するフィードバック	課題については、提出後に教員がチェックし返却します。必要に応じて授業内でコメントします。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版株式会社(9,020円)ISBN:978-4-263-42607-4 『歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』医歯薬出版株式会社(6,380円)ISBN:978-4-263-42622-7 1年次に購入済み						
参考書・教材	『新版 家族のための 歯と口の健口百科』医歯薬出版株式会社						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	歯科健康教育とは：地域歯科保健活動における歯科健康教育のあり方について学修する。 [課題(準備)]乳幼児やその保護者の特性やニーズに関する情報を収集する(1h)						
2	乳幼児期(1)：歯科衛生アセスメント 乳幼児やその保護者の特性やニーズに関する情報収集、子育てサロン聞き取り調査を実施し、乳幼児やその保護者の情報を整理・分類する。						
3	乳幼児期(2)：歯科衛生アセスメント 乳幼児期の口腔に関連する問題点の情報処理、歯科衛生診断(問題の明確化)、アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする。						
4	乳幼児期(3)：歯科衛生計画立案 乳幼児期の口腔に関連する問題点の問題点から、目標の設定、介入方法の決定、指導案作成をする。 [課題(復習)]乳幼児の口腔内の特徴や仕上げ磨きの指導ポイントなどを確認しておく(1h)						
5	乳幼児期(4)：歯科衛生計画立案 乳幼児期の口腔に関連する問題点の問題点から、設定した課題の確認・教育原稿・媒体作製、歯科衛生介入に必要な媒体を作製する。						
6	青年期(1)：歯科衛生アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案 高校生の特性やニーズに関する情報を分析し、アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする 問題点から目標の設定、歯科衛生介入方法の決定をする [課題(準備)]高校生の特性やニーズに関する情報を収集してくる(1h)						
7	青年期(2)：歯科衛生計画立案 第6回の課題の確認をする。高校生に対する歯科保健指導実習に向けて高校生に対する介入計画から指導案を作成する。 [課題(復習)]高校生に対する歯科保健指導の指導案を作成する(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	学校歯科保健 学校歯科保健とは何か、学校における歯科保健問題、学校歯科健康診断について学修する。小学校歯科健康教育に向けての情報収集を行う。 [課題(準備)]児童の特性やニーズに関連する情報を収集してくる(1h)
9	学齢期(1)：課題の確認・歯科衛生アセスメント(情報収集) 児童の情報収集と整理・分析を行う。
10	学齢期(2)：歯科衛生診断(問題の明確化) アセスメント結果をもとに児童の問題点を明らかにする *子育てサロン実習(1)
11	学齢期(3)：歯科衛生計画立案・幼児教育学科との交流実習 児童に対する問題点から、歯科衛生計画を立案し、歯科衛生介入方法(指導案)を検討する *子育てサロン実習(2)
12	学齢期(4)：教育原稿・媒体作製 小学校歯科健康教育に向けて指導案をもとに媒体を作製する。 *子育てサロン実習(3) [課題(準備)]第1回から第12回の内容を復習する(2h)
13	第1回から第12回までの知識の確認を行う。(筆記試験)
時間外での学修	学内や地域での歯科保健活動を実践するため多職種との連携が必要となります。多職種についての知識を深めておきましょう。時間外を活用し、健康教育のための媒体作製を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：7時間】
受講学生へのメッセージ	地域歯科保健活動を実践するため、演習には積極的に参加し自らの知識・技能の向上を目指すことを期待しています。オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。

【4H5S204】診療補助応用		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大谷 悦世・水嶋 広美						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大谷：歯科医院・介護施設他、歯科衛生士13年 藤塚：歯科医院・総合病院 歯科衛生士5年						
授業方法	講義と示説で診療の流れや使用器材の基礎知識、器材の名称、用途、使用法を理解し、マネキンや模型上でのロールプレイで手技を修得します。						
到達目標	知識・理解	それぞれの治療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備取り扱い方法が説明できる。診療時における共同作業を行う上で必要な知識・技術・態度（患者への配慮）などを修得し、適切に判断し適応できるようになる。					
	思考・判断・表現	学修内容を臨床と結びつけて考え、様々な場面で適切に対応するための思考や判断をすることが出来る。					
	技能	各材料・器材の名称・用途を説明し、正しい取り扱いができ、スムーズに診療時の共同動作ができるようになる。					
	関心・意欲・態度	授業への積極参加と自学自修ができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	日常の臨床において、歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークは、診療を円滑に行っていくためにも必要不可欠なものです。そのアシスタントワークの中でも、歯科材料の取り扱い、基本的性質の理解と適正な取り扱い方法を修得することが重要となります。そのためこの授業では、歯科材料に対する知識を深めると同時にその取り扱い技術を磨き、様々な状況に合わせた適切な対応を学びます。						
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		50	-	-	-	50
	課題、レポート		-	10	-	-	10
	実技チェック		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	10	30	10	100	
評価の特記事項	受講態度は学修の取り組み、課題提出状況等とします。フィードバックとして理解度確認テストを実施し、解答の解説をします。						
ICT活用	学生ポータル、Googleクラスルームを質問等に活用します。						
アクティブラーニングの活用	PBLを小グループ討論で行います。						
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』医歯薬出版株式会社(6,600円) 『歯科衛生シリーズ 保存修復学・歯内療法学』医歯薬出版株式会社(4,730円)ISBN:978-4-263-42820-7 『歯科衛生シリーズ 歯科材料』医歯薬出版株式会社(3,850円)ISBN:978-4-263-42851-1 『スマホで学ぼう！歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編Part1』一社出版(3,960円)ISBN:978-4-87078-194-8 必要に応じてハンドアウトを配付します。						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	実習ガイダンス ラバーダム防湿 ラバーダム防湿法の意義と使用する基本的な機器について理解する。 [課題(復習)]使用器具、手順について復習する。(2h)						
2	ラバーダム防湿 :ラバーダム防湿法に使用する各種機器について復習する。ラバーダム防湿を実施できる。 [課題(復習)]ラバーダム防湿法ができるように復習する。(1h)						
3	ラバーダム防湿 マネキンにおいて各種機器の取り扱いと、術式を修得を復習する。 歯内療法 : 歯髄保存療法・麻酔抜髄法における使用器具、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(復習)]ラバーダム防湿、歯内療法実習を復習する。(1h)						
4	間接修復(インレー修復)法アシスタントワーク実習 インレー修復物作成・合着のための術式、使用機器を理解する。インレー修復物作成のための印象採得やアシスタントワークの方法を修得する。 [課題(復習)]間接修復物作成のための術式、使用機器をまとめる。(2h)						
5	暫間被覆冠及び仮着材の取り扱いを考える (暫間被覆冠を使用する方法・印象法) [課題(復習)]暫間被覆冠の作製法を復習しまとめる。(2h)						
6	歯内療法 : 根管治療における使用器具、アスカトワーク、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(復習)]根管治療で使用する機器、術式について確認する(2h)						
7	歯内療法 根管充填における使用器具、アスカトワーク、予後や経過に関する患者指導について学修する。 [課題(復習)]根管充填で使用する機器とアスカトワークについて確認する(1h) [課題(復習)]5~7回の学修内容について知識の整理をする。(1h)						
8	実技チェック ラバーダム防湿法実技試験、歯内療法において使用する器具・器材に関する名称や用途の説明、トレーセティングができるかチェックをする。 第1~7回のまとめと課題の確認をする。 [課題(復習)]今まで学修したことを復習する(2h)						
時間外での学修	『保存修復学・歯内療法学』『口腔外科学』などの科目との関連が深いので講義で学修したことをしっかりと復習してください。それらの講義内容と本科目で学修する内容の両方を総合的に理解することが大切です。時間外学修で関連付けをしっかりと行ってください。【この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						

受講学生への  
メッセージ

この授業で使用される器具・器材は、臨床で毎日見るようなものばかりです。名称、用途を確実に覚えておくことで、臨床実習がより理解できます。課題は指定された日時に提出してください。  
オフィスアワー：G606で木曜5限目です。

【4H5S205】診療補助応用		歯科衛生学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	大谷 悦世・藤塚 未子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	大谷：歯科医院・介護施設他、歯科衛生士13年 藤塚：歯科医院・総合病院、歯科衛生士5年						
授業方法	講義と示説で診療の流れや使用器材の基礎知識、器材の名称、用途、使用法を理解し、マネキンや模型上でのロールプレイで手技を修得します。						
到達目標	知識・理解	・ 歯内療法治療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備、取扱方法が説明できる ・ 診療時における共同作業を行う上で必要な知識・技術・態度を習得できる					
	思考・判断・表現	学習内容を臨床と結びつけて考え、様々な場面で適切に対応するための思考や判断をすることができる					
	技能	器材の名称、用途を説明し、正しい取り扱いができ、スムーズに診療時の共同動作ができる					
	関心・意欲・態度	授業への積極参加と自学自習ができる					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科医療を行う際、術者とチームを組む補助者は積極的かつ確実な共同動作が要求される。加えて、歯科衛生士としてどのように診療にかかわるかが重要である。この授業では、共同動作の概念を理解した上で、歯内療法治療(歯髄処置)を中心に、それぞれの診療の術式とその中で使用される器材の準備、取り扱い方法を習得する。また、診療時における共同動作を行う上で歯科衛生士として必要な知識・技術を学ぶ。						
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験		50	-	-	-	50
	課題、レポート		-	10	-	-	10
	実技チェック		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	10	30	10	100
評価の特記事項	授業態度は学習の取り組み、課題提出状況等とします。フィードバック理解度確認テスト、解答の解説をします。						
ICT活用	学生ポータル、Googleクラスルームを質問等に活用します。						
アクティブラーニングの活用	ロールプレイやグループワークを中心に進めていきます						
課題に対するフィードバック	課題のコメントは授業内で行います。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版社株式会社(6,600円) ISBN:978-4-263-42840-5 『歯科衛生学シリーズ 保存修復・歯内療法学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版社株式会社(4,730円) ISBN:978-4-263-42632-6 『歯科衛生学シリーズ 歯科器材』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版社株式会社(3,520円) ISBN:978-4-263-42627-2 『スマホで学ぼうシリーズ! 歯科診療の補助コンプリートBOOK 共同動作編Part1』木下淳博、竹之内茜、大谷悦世 一迅出版株式会社(3,960円) ISBN:978-4-87078-194-8 必要に応じてハンドアウトを配付します。						
参考書・教材	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 「1年次に購入済」 歯科衛生学シリーズ 歯科器材 「1年次に購入済」						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1.2	実習ガイダンス、歯内療法治療の概要、前準備 ラバーダム防湿：ラバーダム防湿法の意義と使用する基本的な器材の取り扱いについて理解する。 [課題(復習)]歯内療法治療の概要、前準備の使用器具、手順について復習する。(2h)						
3.4	ラバーダム防湿：ラバーダム防湿法に使用する器材について復習する。ラバーダム防湿を実施できる。 [課題(復習)]ラバーダム防湿法ができるように復習する。(2h)						
5.6	ラバーダム防湿：1歯露出法(有翼・無翼)を実施できる 衛生材料作成を实践する。 [課題(復習)]歯内療法における衛生材料が作成できるように復習する(2h)						
7.8	歯内療法治療の器具・器材の取り扱い ：歯髄除去療法における器具・器材の準備と取り扱いについて学修する。 [課題(復習)]歯髄除去療法の器具・器材の取り扱いを復習する。(2h)						
9.10	歯内療法時の診療補助 歯髄除去療法における器具・器材の準備と取り扱い、診療の流れについて学修する。 [課題(復習)]歯髄除去療法の診療の流れをまとめる。(2h)						
11.12	暫歯内療法時の診療補助 歯髄除去療法(根管充填)における使用器具、診療の流れについて学修する。 プロビジョナルレストレーションについて作製手順を学修する。 [課題(復習)]根管充填で使用する機器とアスカワークについて確認する。プロビジョナルレストレーションの作製手順を復習する(2h)						
13.14	プロビジョナルレストレーション作製、仮封材の取扱いを实践し、患者指導について学修する。 [課題(復習)]プロビジョナルレストレーション、仮封材の取扱いを復習する。(2h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
15.16	歯内療法治療、ラバーダム防湿法まとめ 第1～14回のまとめと課題の確認をする。 【課題(復習)】今まで学修したことを復習する(2h)
時間外での学修	「保存修復学・歯内療法学」などの科目との関連が深いので講義で学修したことを復習し臨んでください。 それらの講義内容と本科目で学修する内容を関連づけ、総合的に理解することが大切です。 【この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	この授業で使用される器具・器材は、臨床で毎日見るようなものばかりです。名称、用途を確実に覚えておくことで、臨床実習がより理解できます。課題は指定された日時に提出してください。 オフィスアワー：木曜5限目です。

【4H5S206】診療補助応用		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	松下 健二・水嶋 広美					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松下健二 大学付属病院 歯科医師9年					
授業方法	講義と示説で理解し、実際に検査を行いながら測定方法を修得し、データを分析していきます。また、救急処置として基本を身につけていきます。問題解決型学修と小グループ討論で考えた事などを発表する活動なども含めて授業・実習を展開していきます。またICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。学生からの要望・メッセージ等には口頭やポータルサイトなどで対応します。					
到達目標	知識・理解	臨床検査方法および検査値を理解できる。				
	技能	臨床検査の概要を説明し実施する。				
	関心・意欲・態度	主体的に学修できる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯科臨床の場で直接患者と接する歯科衛生士が、患者の状態を示す臨床データを正しく理解することは必要なことであり、それを踏まえた臨床対応は必要不可欠なものとなります。そのため、各種の検査方法や正常値と病態などの関係の基礎知識を理解することが必要となります。ここでは臨床検査の基礎知識の修得と検査方法を学びます。また、歯科治療中の偶発症時の対応として、救急蘇生法について学びます。					
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	45	-	-	-	45
	実技試験	-	-	30	-	30
	小テスト・課題	20	-	-	-	20
	受講態度	-	-	-	5	5
	合計(点)	65	-	30	5	100
評価の特記事項	筆記試験は定期試験にて評価します。期間中どこかで実技試験を行います。課題提出は授業内における小テストやレポートで評価します。履修カルテは内容、提出状況を総合的に評価します。					
ICT活用	ポータルサイトなどICTを活用した双方向授業や自主学修支援などを実施する予定です。					
アクティブラーニングの活用	PBLを小グループ討論で行います					
課題に対するフィードバック	課題などのフィードバックは即対応可能なものにはその場で、時間を要するものにはポータルサイトもしくはメールなどで対応します。					
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 臨床検査』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 (3,300円) ISBN: 978-4-263-42631-9 『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版』一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版(4,620円) ISBN: 978-4-263-42637-1					
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	臨床検査の目的と意義 生理検査(脈拍、体温、血圧) : 臨床検査の必要性和歯科衛生士の役割について 生理検査の種類とその概要脈拍・体温測定実習 [課題] (復習)臨床検査の目的と意義 生理検査(脈拍、体温、血圧)についてまとめる(2h)					
2	血液検査(血液型検査、出血性素因の検査、貧血検査、)その他の検査(感染症検査・肝機能検査・病理検査) [課題] (復習)血液検査の種類(感染症・肝機能・腎機能)についてまとめる(1h) (血液検査・肝機能検査)についてまとめる(1h)					
3	口腔領域の臨床検査と口腔機能低下症の検査について 唾液や歯垢を検査する方法、口腔低下症の検査と意義、方法 [課題] (復習)口腔領域の検査(口腔乾燥・舌圧・口唇圧など)についてまとめる(2h)					
4	口腔外科(普通抜歯器具・局所麻酔器具の取り扱いについて学ぶ) 第1~3回の授業時間外の課題も参考にしながら自分の意見をまとめる [課題] (復習)抜歯器具についてまとめる(2h)					
5	口腔外科(下顎水平埋伏智歯抜歯器具学ぶ) 小手術器具(切開排膿、硬組織小手術、軟組織小手術)についてまとめる [課題] (復習)小手術器具(切開排膿、硬組織小手術、軟組織小手術)について予習する 実技試験に向けた練習口腔外科(小手術器具の取り扱いについて学ぶ)(2h)					
6	実技チェック(外科器具・小手術器具の取り扱い) 第4回・5回の授業時間外の課題も参考にしながら実技チェックに取り組む 課題 (復習)口腔外科器具についてまとめる(2h)					
7	救命救急法 救急蘇生の処置法を身につける(BLS実習) [課題] (復習)救命救急法、救急蘇生の処置法についてまとめる(1h)					
8	血液検査、一般検査 糖尿病検査の目的及び方法 正常値の理解と検査結果からわかること [課題]口腔領域の臨床検査についてまとめる 歯科治療における糖尿病患者の注意事項を復習する(2h)					
時間外での学修	時間外での学修[課題]は授業の到達目標を達成するために必要をなる内容ですので( )の標準学修時間をめどとして確実に学修しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 15時間】					

受講学生への メッセージ	受講学生へのメッセージ：身近な環境から世界的視野まで口腔外科・歯科麻酔について考え、これらを学ぶことで歯科衛生士として各自の生活や歯科診療での活動と結び付けながら積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーは(G204)で毎週(木)曜日(16:10)から(17:40)です。質問などあれば来てください。
-----------------	--

【4H5S207】診療補助応用		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	水嶋 広美・大林 泰二・吉田 康夫・足立 寛子						
資格・制限等	特になし						
実務家教員	吉田 康夫：大学病院及び一般歯科医師9年 大林 泰二：大学病院他 歯科医師15年 足立 寛子：歯科医院歯科衛生士15年						
授業方法	前半は主として相互実習のなかで画像検査をおこないます。後半は、自分自身の検査結果を分析する方法を学び、口腔内の状態を客観的に観察したものをレポート作製しまとめていきます。作製したレポートを検討し、フィードバックを行います。これから始まる臨床・臨床実習の診療補助業務の矯正器具の取り扱いやホワイトニングについても学んでいきます。						
到達目標	知識・理解	1.口腔内写真撮影法、顔面写真の意義・方法を述べることができる 2.X線写真撮影法についての知識・手技を述べることができる 3.ホワイトニングの知識・技術を説明し実施できる。 4.口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する 5.口内法エックス線撮影のフィルムの位置づけ方法と写真処理の方法と手順を説明し実施できる。 6.パノラマエックス線撮影の患者の位置づけを説明し実施できる。 7.画像や模型から情報の分析法を説明できる。 8.矯正治療における器具の取り扱い説明する。					
	技能	各項目画像検査の課題を実習ことにまとめて理解する。 歯科矯正治療で使用する器具名称、用途を理解する。 ホワイトニングの知識及び技術を修得する。					
	関心・意欲・態度	項目ごとに復習し記録する。 歯科診療においてそれぞれの課題に関心を持ち、積極的に取り組み理解することができる。					
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	歯科診療における画像検査の手順と目的を中心として歯科診療補助業務について学修します。また、診療過程における知識・技術や器具の取扱い、共同動作と患者への配慮にいても身につけていきます。開講時期が臨床・臨床実習に出る前の期間であるため、実際の臨床の場に即した技能を修得していきます。						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		65	-	-	-	65
	口頭試験		-	-	10	-	10
	課題レポート内容		-	-	15	-	15
	課題レポート提出		-	-	-	5	5
受講態度		-	-	-	5	5	
		合計(点)	65	-	25	10	100
評価の特記事項	筆記試験、受講態度、課題の内容、提出状況などから総合的に評価します。最後に矯正器具の口頭試問等については、フィードバックしながら解説をしていきます。実習での画像検査は、自宅でレポートを作成し、期日に提出してもらいます。受講態度は授業への取り組み様子と毎回実習後の実習記録まとめと提出状況で評価していきます。 全授業の3分の1以上欠席の場合は、最終試験(筆記試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ポータルなどを活用します。						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワーク、ロールプレイを中心に進めて行く						
課題に対するフィードバック	課題は、授業で全体的にコメントで適宜伝えます。実習ごとに課題が出ます。单元ごとの課題をまとめ提出して下さい。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(6,600円)ISBN:978-4-263-42629-6 『歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,080円)ISBN:978-4-263-42635-7 『歯科衛生学シリーズ 歯科機器』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,520円)ISBN:978-4-263-42627-2 『歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(4,730円)ISBN:978-4-263-42632-6 『歯科衛生学シリーズ 小児歯科学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,300円)ISBN:978-4-263-42614-2 『歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,300円)ISBN:978-4-263-42628-9 『歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 (3,740円)ISBN:978-4-263-42615-9 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 「1年次に購入済」 歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 第2版 「1年次に購入済」 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 「1年次に購入済」						
参考書・教材	資料は適宜配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	実習ガイダンス 画像検査(口腔内写真・顔面写真・エックス線写真)の目的、撮影法について考える 診療補助(矯正治療・インプラント)治療の手順の沿った器材の理解、歯科衛生士の業務の理解 [課題(復習)]画像検査について復習してまとめる。(1~2h)						
2.3	口腔内写真撮影法を理解する(カメラ仕組み、準備、手順を実習)顔面写真の撮影、パノラマX線の撮影テクニックの理解と撮影実習を修得する [課題(復習)]実習で学んだことを、を復習しまとめる(2~3h)						
4.5	口内法エックス線撮影(10枚法)フィルムの位置づけと保持を修得する [課題(復習)]撮影方法・撮影写真を整理し、エックス線像を復習しまとめる(2~3h)						
6.7	矯正治療の流れに合わせた器具の準備、取り扱い [課題(復習)]矯正治療の使用した器具の準備復習しまとめる(2~3h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8.9	口腔外科（インプラント）における歯科衛生士の業務を考える（第1回～5回の課題の確認） パノラマ撮影、デジタル撮影後のマウント、読影の方法 [課題（復習）]撮影した写真を整理し、撮影方法についてまとめる（2～3h）
10.11	ホワイトニングのメカニズム、種類、術式について学ぶ。 オフィスホワイトニング、ホームホワイトニングについて実践する。 [課題（復習）]画像分析をまとめる（2～3h）
12.13	資料分析 エックス写真、口腔内写真、顔面写真の分析 授業時間外の課題も参考にしながら、自分なりに取り組みまとめる スタディモデルの分析 [課題（復習）]資料分析法などの学んだ内容を復習しまとめる（2～3h）
14.15	分析のまとめ。 矯正器具の復習テストを行う。 [課題（復習）]授業で学んだ全体の内容について振り返り、総合的なまとめを行う（2～3h）
時間外での学修	実習を受けるにあたり、事前に該当分野の予習をしてから臨むようにしましょう。各單元ごとの課題をまとめ、期日までに提出してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	本実習の知識は、2年生前期までに既習の内容が多く、臨床・臨地実習の現場で日常行われます。テキストや図書館の活用で、積極的に授業に参加してください。 オフィスアワーは研究室（G306：G号館3F）で毎週木曜日の16：20から17：30です

【4H5A408】摂食嚥下リハビリテーション学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	松下 健二・大谷 悦世					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	松下健二、大谷悦世					
授業方法	講義、グループワーク、基礎実習など授業内容の項目に従い行います。また、必要に応じて、学生ポータルやSNSで質問等を受け付けます。					
到達目標	知識・理解	1. 摂食嚥下障害の原因や分類を述べる。 2. 摂食嚥下に必要な器官の解剖学的名称を確認し、摂食嚥下のメカニズムを説明する。 3. 摂食嚥下障害のスクリーニング法を説明する。 4. 間接訓練方法と直接訓練方法を理解する。 5. 介護予防プラン（口腔機能の向上）の作成ができる。				
	技能	摂食嚥下機能のスクリーニング法を実施する。				
	関心・意欲・態度	自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。				
授業内容	口腔は単に食べるだけではなく、コミュニケーションなど人にとって欠かせない器官です。障がい者や高齢者などQOLを向上するためには、口腔機能の維持・向上はかせません。歯科衛生士が行う口腔健康管理では、単に口腔清掃だけではなく口腔機能向上のための訓練を行っていく必要があります。前半では、摂食嚥下障害の特性やスクリーニング法、訓練方法の基礎知識を学び、基本的技術を修得します。後半では、臨床における症例から学び深めることを目指します。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	30	-	30
	小テスト	20	-	-	-	20
	受講態度	-	-	-	10	10
合計(点)	60	-	30	10	100	
評価の特記事項	複数の教員により、観点別に評価を行います。小テストを実施するので、時間外学修を行い理解を深めていきます。受講態度は、授業への取り組みの様子で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータルやグループワークルームを用いて質問等に対応します。					
アクティブラーニングの活用	PBLを小グループ討論で行います					
課題に対するフィードバック	授業時間外課題については次回の授業で小テストを実施し、説明および確認をします。課題レポートについても、反転授業で使用します。					
テキスト	『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』公益社団法人 日本歯科衛生士会 医歯薬出版株式会社(4,180円)ISBN:978-4-263-42264-9 『歯科衛生学シリーズ『高齢者歯科学』』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 医歯薬出版株式会社(4,840円)ISBN:978-4-263-42633-3					
参考書・教材	授業資料は、その都度配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<総論：歯科衛生士の業務としての摂食機能療法> 摂食嚥下のメカニズムを知り、口腔解剖学の知識を確認するため、課題を行う。 [課題（復習）]摂食嚥下のメカニズムと口腔解剖学についてまとめる。(0.5h)					
2	<高齢者の特徴・高齢者歯科 > 高齢者の特徴を知り、加齢に伴う身体的・精神的変化を理解するため課題を行う。 [課題（予習）]加齢に伴う身体的・精神的変化についてまとめる。(0.5h)					
3	<摂食嚥下に関わる高齢者歯科 > 高齢者歯科の概略を知り、口腔のケアを理解するため、課題を行う。 [課題（予習）]高齢者・要介護者の口腔のケアについてまとめる。(0.5h)					
4	<摂食嚥下にかかわる検査 > 摂食嚥下障害の病態及び摂食嚥下機能評価の検査を学び、スクリーニング法を小グループ討論で学ぶ。 [課題（復習）]スクリーニング方法をまとめる。(0.5h)					
5	<摂食嚥下にかかわる検査 > 摂食嚥下障害の病態及び摂食嚥下機能評価の検査を学び、スクリーニング法を実習する。 [課題（復習）]スクリーニング方法の評価基準をまとめる。(0.5h)					
6	<摂食嚥下における基礎（間接）訓練 > 基礎訓練法1：準備期・口腔期に作用する訓練を小グループ討論で学ぶ。 [課題（復習）]基礎訓練法（準備期・口腔期）の基本訓練理論を復習する。(0.5h)					
7	<摂食嚥下における基礎（間接）訓練 > 基礎訓練法1：準備期・口腔期に作用する訓練を実習する。 [課題（復習）]基礎訓練法（準備期・口腔期）の基本訓練実技を復習する。(0.5h)					
8	<摂食嚥下における基礎（間接）訓練 > 基礎訓練法2 咽頭期に作用する訓練や呼吸訓練法を小グループ討論で学ぶ。 授業時間外の課題を参考にしながら、技術面の自己評価を行う。 [課題（復習）]咽頭期に作用する基礎訓練法や呼吸訓練法の理論を復習する。(0.5h)					
9	<摂食嚥下における基礎（間接）訓練 > 基礎訓練法2 咽頭期に作用する訓練や呼吸訓練法を実習する。 [課題（復習）]咽頭期に作用する基礎訓練法や呼吸訓練法の実技を復習する。(0.5h)					
10	<摂食嚥下における直接訓練 > 直接訓練の種類と方法を小グループ討論で学ぶ。 [課題（復習）]直接訓練の種類と方法についてまとめる。(0.5h)					
11	<摂食嚥下における直接訓練 > 直接訓練を実習する。 [課題（復習）]直接訓練の実技を復習する。(0.5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
12	摂食嚥下に関する知識の再確認 [課題(復習)]今までの検査・訓練を復習する。(0.5h)
13	-実技テスト-摂食嚥下に関する知識のまとめ [課題(復習)]今までの検査・訓練を復習する。(0.5h)
14	<介護予防プラン作成 概論> 介護予防における口腔機能向上のアセスメントについて学ぶ。(症例) 症例のアセスメント結果より介護予防プラン作成手順を解説する。 その演習から、問題解決学習を行う。 [課題(復習)]口腔機能向上のアセスメント項目についてまとめ、介護予防プランを作成する。(0.5h)
15	<介護予防プラン作成 実践・まとめ> 介護現場の最新情報から介護予防における口腔機能向上のアセスメントについて学び、アセスメント結果より介護予防プラン作成する。 また全体のまとめを行う [課題(復習)]介護予防プランを確実に作成する。(0.5h)
時間外での学修	1年時に学ぶ解剖学や生理学などの知識が必要になります。また、知識確認のため小テストを随時行います。復習をしっかり行い実技テストや定期試験に臨んでください。[課題]は授業の到達目標に達成に必要な内容ですので、( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう。 【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：6時間】
受講学生へのメッセージ	後期開講の「口腔健康管理演習」と関連性のある科目であり、臨床・臨地実習、国家試験受験に必要な内容が多く含まれるので受講しましょう。これからの歯科衛生士に必要な知識・技術です。オフィスアワーは、松下：木曜日5時限、研究室（G204：G号館2F）、大谷：木曜日5時限、研究室（G404：G号館4F）

【4H5A109】介護概論		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	選択	講義	15時間	
教員	水上 和典					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	看護師5年（うち介護老人保健施設1年） 介護福祉士資格					
授業方法	講義科目ですが適宜演習をまじえ、介護に関する基本を学び発展的に考える展開をめざします					
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護」のもつ意義・理念・原則を理解する。</li> <li>・認知症症状の対応について理解する。</li> <li>・高齢者疑似体験を通して高齢者の特徴・注意点を理解する。</li> <li>・ボディメカニクスを活用した介護技術を理解する。○</li> <li>・アドバンスドケアプランニングについて理解する。○</li> </ul>				
	思考・判断・表現	・歯科衛生士としての多職種連携のあり方を考えることができる				
	技能	・安全な介護技術の展開ができる（見守り、コミュニケーション、移動）○				
	関心・意欲・態度	講義や各課題に積極的に参加し、探求心をもとに関心のあるテーマで課題に取りくむことができる○				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	医療だけでなく福祉分野とも連携が欠かせない超高齢社会です。介護職の考え方を学ぶことは専門性を高めるための一助となります。本講では介護の基礎知識や技術を学び、多職種協働にむけた考え方を養うことを目的とします。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	30	20	-	-	50
	小テストおよび課題	10	10	-	-	20
	ワークシート等	-	-	5	5	10
	受講態度	-	-	10	10	20
合計(点)	40	30	15	15	100	
評価の特記事項	小テストや課題は講義内で提示します。					
ICT活用	講義への希望やアンケートをweb上で活用します。					
アクティブ・ラーニングの活用	それぞれの身に引き寄せた課題の展開をおこない、家族や近親の方との深い学びを期待します。					
課題に対するフィードバック	小テストや課題は講義内で解説、返却して理解度を深めます。					
テキスト	なし					
参考書・教材	教材：テキストの使用はしません、必要に応じて資料を配布します。 参考：介護福祉士実務者研修テキスト等					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	介護とはなにか ・介護の歴史、意義、理念、原則について ・わが国の人口構成の現状と将来 [課題] (3h) ・講義への希望 (webアンケート) ・介護の意義、理念、原則について調べ、歯科衛生士との関わりを考える。 ・認知症のなにが問題であるのかを調べ、考える					
2	認知症の理解 ・認知症の疫学 ・認知症介護のありかた ・認知症高齢者のみえる世界 (VR) [課題 (復習)] (3h) ・認知症について理解し、歯科衛生士としての関わり方を考える。					
3	高齢者疑似体験1 ・高齢者の生理的特徴 ・高齢者疑似体験 (視覚・聴覚・運動) ・高齢者疑似体験をとおしての学びの共有 [課題 (復習)] (3h) 高齢者疑似体験、福祉用具の活用を学び、レポートにまとめる。					
4	高齢者疑似体験2 ・高齢者の生理的特徴 ・高齢者疑似体験 (視覚・聴覚・運動) ・高齢者疑似体験をとおしての学びの共有 [課題] (3h) 高齢者疑似体験、福祉用具の活用を学び、レポートにまとめる。					
5	自立と相手の心身の状態に応じた生活支援技術の基本1 ・生活支援とICF ・移動の生活支援技術 (体位変換・車椅子等) [課題] (3h) 移動についての基礎知識をまとめる。					
6	自立と相手の心身の状態に応じた生活支援技術の基本2 ・生活支援とICF ・移動の生活支援技術 (体位変換・車椅子等) [課題] (3h) 移動についての基礎知識をまとめる。					
7	・地域で生活する療養者を支える社会資源 (医療・保険・福祉) ・介護保険制度のいま [課題] (6h) (復習) 自分の居住する地域の社会資源を調べ、活用事例をまとめる					



内容	
実施回	授業内容・目標
8	<p>人生の終焉について (ACP)</p> <p>[準備] (3h)</p> <p>どのような最期を迎えたいか、どのように生きたいかを身近な大人と考える</p> <p>・人生の最期をささえる考え方 (ゲーム)</p> <p>[課題] (3h)</p> <p>自らの人生設計を考える</p>
時間外での学修	<p>それぞれの振り返りや課題について自ら調べてまとめる習慣を身につけましょう。物事を整理し、説明できることは、知識が根拠に基づいた深い理解となっていることを表します。</p> <p>【本講義における講義時間外での望ましい総学修時間：30時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>「介護」は単なる身の回りの世話ではない、目的をもった支援技術です。多職種連携の視点を養うためにも幅広い知見を得てもらえることを期待します。意見・質問があれば講義後の時間や研究室に声をかけてください。</p> <p>オフィスアワーは研究室 (I302)、講義日の終講～17:00とします。</p>

【4H5A110】看護概論		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位	選択	講義	15時間	
教員	水上 和典					
資格・制限等	特になし					
実務家教員	病院（看護師）5年					
授業方法	必要な資料をもとに講義および演習やディスカッションを取り入れた能動的な学修展開を基本とする					
到達目標	知識・理解	医療職者として必要な解剖や疾患の捉え方、コミュニケーションの技法、環境調整の視点などの基本的な知識の理解ができる				
	思考・判断・表現	今後の地域包括ケアの拡充のために必要な多職種協働の理解と実現にむけて考えることができる				
	技能	看護における基本的な看護技術の実施ができる○				
	関心・意欲・態度	講義や各課題に積極的に参加し、探求心をもとに関心のあるテーマで課題に取り組むことができる○				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	歯科衛生士と同じく、医療専門職である看護の知識を学ぶことは専門性を高めるための一助となる。本講では看護の基礎知識や技術を学ぶとともに、疾患の知識や社会資源にも触れることで、地域包括ケアの拡充や多職種協働にむけた考え方を養うことを目的とする。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	試験	30	20	-	-	50
	小テストおよび課題	10	10	-	-	20
	ワークシート・リアクションペーパー	-	-	10	10	20
	受講態度	-	-	5	5	10
合計(点)	40	30	15	15	100	
評価の特記事項	小テストや課題レポートは講義内での提示・実施をします。					
ICT活用	講義質問やアンケートをweb上での意見反映をおこないます。					
アクティブ・ラーニングの活用	googleフォーム等を用いた課題の取り組みをおこないます。					
課題に対するフィードバック	小テストや課題は講義での解説をおこない、返却して理解度を深めます。					
テキスト	『なし』					
参考書・教材	参考書：系統看護学講座シリーズ（医学書院）、ナースンググラフィカシリーズ（メディカ出版）、他 教材：適宜資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	看護概論で学ぶこと、健康と歯科衛生士 ・ガイダンス（講義の進め方、評価方法、授業内容） ・「健康」の概念と看護および技術とは何か ・チーム医療と歯科衛生士の役割について [課題(復習)](3h) ・資料をもとに、関心を持ったテーマについてのレポート ・講義に取り上げてほしいもの、感想（webアンケート）					
2	患者に適した「環境」を考える ・ナイチンゲールの業績からみる「環境」の大切さ ・医療職者が整えるべき「環境」の視点と基準 ・医療事故と環境 [課題(復習)](3h) ・資料をもとに、自身の周囲の環境についてのレポート ・KYTトレーニング問題の取り組み					
3	医療者に求められるコミュニケーション ・コミュニケーションスキルの向上のために ・プロセスレコードを書いてみよう [課題(復習)](3h) ・対人関係の問題場面の抽出とプロセスレコードの記載（メール提出）					
4	基本的な看護援助技術（演習） [課題(準備)]ボディメカニクスの留意点（2h） ・ボディメカニクスと移動の技術（車椅子・ストレッチャーの操作） ・清潔・安楽の援助 [課題(復習)](3h) ボディメカニクスと清潔の援助の留意点、ワークシート					
5	医療者としての患者に対する配慮や工夫（演習） ・環境の測定 ・プロセスレコード検討会 [課題](3h) (復習)患者、生活者にとって望ましい環境、自己の対人関係の振り返り					
6	認知症と社会のあり方 ・認知症の概要 ・認知症の人がみえる世界 ・倫理的課題（自己決定と抑制の視点から） [課題](5h) (復習)解剖生理に関する知識をまとめる、認知症JR事故についての自己の意見をまとめる					
7	・地域で生活する療養者を支える社会資源（医療・保険・福祉） ・介護保険制度のいま [課題](5h) (復習)自分の居住する地域の社会資源を調べ、活用事例をまとめる					

内容	
実施回	授業内容・目標
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経口摂取と口腔ケア</li> <li>・経管栄養の実際</li> <li>・まとめ（目指す歯科衛生士像）</li> </ul> [課題] (2h) (復習) 評価レポートに向けてのテーマの選定および考察
時間外での学修	各自の振り返りや課題は自ら調べてまとめる習慣を身につけましょう。物事を整理し、説明できればその知識は根拠に基づいた深い理解となっていることを表します。 <b>【本講義における講義時間外での望ましい総学修時間：30時間】</b>
受講学生へのメッセージ	「看護」も幅がひろく、取り上げられることは限られますが様々な視点で皆さんに役立つ要素を取り入れていきたいと思えます。意見・質問があれば講義後の時間や研究室に声をかけてください。 オフィスアワーは研究室（I302）、講義日の15：20～17：00とします。

【4H6A401】臨床・臨地実習		歯科衛生学科		2年後期		
		6単位	必修	実習	270時間	
教員	水嶋 広美・松下 健二・大林 泰二・吉田 康夫・今井 藍子・大谷 悦世・川畠 智子・藤塚 未子					
資格・制限等	未修得科目数による制限有り					
実務家教員						
授業方法	前半は、学内において演習、実習、実技試験等を行う。後半は、学外の各実習施設にて実習を行う。					
到達目標	知識・理解	医療人として、備えるべき専門的な基本的知識を述べる。				
	技能	1.患者の主訴を把握し、歯科治療の流れを予測する。そして、感染予防対策に留意し指示された器具を準備する。 2.臨床・臨地実習の学びと反省について報告し、プレゼンテーション力を身につける。				
	関心・意欲・態度	医療人として日常の自己管理に心掛け主体的な実習を行い、自学自習ができる。				
	備考	・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
授業内容	前半は、臨床・臨地実習に関するオリエンテーションやその前準備を行い、学外実習前の最終チェックを行う。後半は、学内で獲得した知識・技術を臨床場面に適応できるように、理論と実践を結び付ける能力を養うことをねらいとして各実習施設における実習を行う。実習施設は、歯科医院、保育園、高等学校である。					
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実習日誌・レポート	40	-	-	-	40
	臨床実習施設の評価	20	-	-	-	20
	実技試験 (学内)	-	-	15	-	15
	実習報告発表	-	-	5	-	5
受講態度	-	-	-	20	20	
合計(点)	60	-	20	20	100	
評価の特記事項	欠席・遅刻・早退した場合、補充を必ず課します。					
ICT活用	ポータルサイト等を活用した実習支援を行います。					
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークやロールプレイを活用します。					
課題に対するフィードバック	前半7週では、学外実習に臨むための知識・技能・態度が身につけているかを確認するための準備学習を行います。その後、その能力が身につけているかを確認するための能力試験を行います。さらに、到達目標に達していない学生は、フィードバックを行い、確認のための再試験を実施します。後半8週では、歯科医院を中心に様々な学外実習に臨み、毎日の実習日誌、その他レポート課題をAcademic Advisorに提出し学修成果を確認します。必要に応じてフィードバックを行います。					
テキスト	実習日誌の作成には、1,2年生時に購入したテキストが必要です。					
参考書・教材	テキストは、その都度指示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1~15	<p>授業内容・目標:前半1週~8週  予防処置、保健指導、診療補助、各分野での総括実習を行う。  ・臨床実習日誌、レポートの記述方法を理解する。  ・医療事故対策講座  ・臨床実習(歯科医院)ガイダンス  ・保育園実習ガイダンス  ・高校実習ガイダンス  ・臨床実習前の実力チェック  各分野において学外実習前の最終チェックを行い、評価結果の低い学生は再指導を受ける。  [課題(復習)]学修内容を復習してまとめる。(8h) 実技試験に必ず合格する。</p> <p>後半9週~15週  ・歯科医院における実習  ・保育園における実習  ・高等学校における実習  臨床・臨地実習で学び成長した事と自己の課題について、実習報告として発表を行う。  [課題(復習)]毎日の実習内容(実習日誌・課題レポート)を復習しまとめる。(16h)</p>					
時間外での学修	臨床・臨地実習に不安なく臨めるように、知識面・技術面の総復習を行いましょ。後半の学外実習では、毎日実習日誌を書きます。テキスト等で調べて正確に記述すること。また、臨地実習においては、事前にレポート作成を課します。実習施設や対象者を把握し実習に臨むように留意してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:24時間】					
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認められません。欠席した分は必ず補います。各自健康管理には十分気を付けて下さい。また、実習生という立場をわきまえ、謙虚な態度で実習に臨んで下さい。オフィスアワーは、各担当教員の時間帯になります。					

【4H6A404】臨床・臨地実習		歯科衛生学科		2年後期			
		1単位	選択必修	実習	45時間		
教員	水嶋 広美						
資格・制限等	未修得科目数による制限有り						
実務家教員							
授業方法	総合病院の歯科・口腔外科において、口腔外科診療室を中心として見学実習を行う。						
到達目標	知識・理解	1. 有病患者に対する知識を備え、口腔外科の施術方法を列挙しその施術に必要な器具、器材の用途を述べる。 2. 感染予防に対する知識及び対処法や器具の消毒・滅菌方法を理解する。					
	関心・意欲・態度	医療人として日常の健康管理に心がけ、主体的な実習を行い自学自習ができる。					
	備考	・ ・ ・ の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
授業内容	総合病院の歯科・口腔外科における見学実習						
観点別評価		評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習日誌		30	-	-	-	30
	実習施設評価		50	-	-	-	50
	受講態度		-	-	-	10	10
	レポート提出状況		-	-	-	10	10
	合計(点)		80	-	-	20	100
評価の特記事項	欠席・遅刻・早退した場合、必ず補充を課します。						
ICT活用	Google Classroom、学生ポータル等を活用して質問やグループワークを行います、						
アクティブ・ラーニングの活用	グループワークやロールプレイを活用します。						
課題に対するフィードバック	事前にレポート課題を提出し、後日各病院実習担当教員よりフィードバックを行う。必ず指導を受けてから実習施設で実習を行う。						
テキスト	『歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,400円)ISBN:978-4-263-42606-7 『歯科衛生学シリーズ 臨床検査』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(3,300円)ISBN:978-4-263-42631-9 『歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論』一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社(6,600円)ISBN:978-4-263-42629-6						
参考書・教材	必要に応じ、1、2年生で購入したテキストを使用する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1~15	1. 総合病院実習前のオリエンテーションを受ける。 2. 総合病院の歯科・口腔外科で5日間の見学実習を行う。 3. 前のグループからの申し送りと実習終了後のフィードバックを行う。 [課題(復習)] 実習終了後、学んだことをまとめるために日誌を作成する。(5~10h)						
時間外での学修	総合病院での見学実習です。実習生として、安全に臨めるように知識・技術の復習を必ず行いましょう。また、事前に課題レポートを作成し、知識を充実させて実習に臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:10時間】						
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認めません。欠席した日数は、必ず補います。各自健康管理には、十分気をつけてください。また、実習生という立場をわきまえて、謙虚な態度で実習に臨んでください。オフィスアワーは、各担当教員の時間帯になります。						